

2023

令和5年度

専門教育科目履修要項

(看護学部)

名古屋市立大学

目 次

看護学部の教育理念・教育目標	1
ディプロマ・ポリシー	2
カリキュラム・ポリシー	3
1 令和5年(2023年)度専門教育学事日程	4
2 専門教育科目履修要領	8
(1) カリキュラム表	8
(2) 履修上の注意事項	16
(3) 欠席について	16
(4) 進級要件	18
(5) 卒業要件	18
(6) 履修登録	18
ア. 履修登録(その1)	18
イ. 履修登録(その2ー再履修)	18
ウ. 集中講義科目の履修登録手続き	19
エ. CAP制	19
(7) 試験および成績	19
ア. 期末試験	19
イ. 期末試験の受験資格	19
ウ. 追試験の受験資格	19
エ. 再試験の受験資格	19
オ. 成績の評価	20
カ. 成績の通知	20
キ. 成績疑問票	20
(8) 試験の注意事項	21
(9) レポート課題作成時の注意	21
(10) 保健師国家試験受験資格取得科目の履修	22
(11) 授業出席にあたって	26
(12) その他	26
3 「コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム」履修制度について	27
4 暴風警報・暴風雪警報発令時における授業・試験について	29
5 公共交通機関運休時の対応について	30
6 「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合における授業・試験等について	31
7 指導教員	32
8 専門教育科目担当教員一覧	33
9 学生生活上の案内	40
10 キャンパス建物配置図	41
11 看護学部棟各階配置図	42
12 西棟2階配置図	44
13 葵校舎各階配置図(名市大看護学部使用エリア)	45
14 名古屋市立大学看護学部履修規程	46
15 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針	66

名古屋市立大学看護学部の教育理念・教育目標

教 育 理 念

人間の尊厳を理解し、看護を通じて保健・医療・福祉に貢献できる人材を育成する。

教 育 目 標

- (1) 幅広い教養を育み豊かな人間性を養う
- (2) 科学的根拠に基づいて判断できる力と社会の変化に対応できる実践力を養う
- (3) 保健医療サービスを受ける人々や提供する側の諸職者との協力的関係を調整する力を養う
- (4) 地域的問題から国際的問題まで幅広い視野を持って人々の健康を考える力を養う

ディプロマ・ポリシー

看護学部では、「人間の尊厳を理解し、看護を通じて保健・医療・福祉に貢献する人材を育成する」という教育上の目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 外国語を含め、幅広い教養と専門分野に関する知識を修得している。
- (2) 科学的・論理的思考と、安全で質の高い看護を提供するための基礎的能力を身につけている。

2. 汎用的技能

- (1) チーム医療を担う一員として他職種の役割を理解し、協働的關係を築き調整する能力を身につけている。
- (2) 様々な情報から健康の社会的側面を多角的に分析し、保健・医療・福祉に対するニーズを個人・地域・地球規模で捉えることができる。

3. 態度・志向性

倫理観に基づいて個人の尊厳や意思を尊重し、看護の探究と看護学の発展につながる学修を継続して行うことができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

基礎的な理論や系統的な知識、豊富な実践的学修経験を基盤として、保健・医療・福祉分野における看護の対象である生活者のQOLの向上にむけた対応を探求するとともに、自らの能力の向上に向けた努力を継続することができる。

カリキュラム・ポリシー

課程編成

1・2年次では、広い視野で多角的に思考できる能力と豊かな人間性を育むために語学をはじめ専門的な学修に必要な基礎的学力を修得します。教養科目では、一般教養、外国語、情報、健康・スポーツ、ボランティア、早期体験学修、看護基礎の科目を配置し、専門基礎科目としては、コミュニケーション、人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復促進、健康と社会を位置づけ、それぞれの科目を講義中心に配置しています。

3・4年次には、看護学の専門的知識・技術およびあらゆる対象への看護活動に必要な看護実践能力を修得します。そのために専門科目として、看護の基礎、生涯発達と看護、健康問題と看護、公衆衛生看護学を位置づけています。

4年次1年間では、将来にわたり看護を継続的に探究し自己研鑽し続けるための基本的能力を修得するため専門科目として、看護の統合、看護の発展を位置づけ、総合的判断力が身につくようにそれぞれの科目を配置しています。

実践

その実践においては、講義・演習ではグループ学修や少人数教育方法を用い、さらに演習においてはシミュレーション学修や体験型学修等を通して理論と技術との関連を学び、臨地での様々な対象や場所における実習を通して、学生の主体性、協調性、さらに内省する態度等を育成します。

学修成果の評価方法

入学時から卒業年次に向けて、看護の専門性を高めるよう教育し、その学習成果は、カリキュラムを構成する諸科目による直接評価を行って卒業生の質を担保します。具体的には、知識および技術に関する評価は、講義科目（定期試験または課題レポートに、小テスト等を加味したもの）や演習科目（技術試験等）の成績をもとに行います。臨床での実践能力の評価は、実習科目の成績（実習態度、実習記録等）をもとに行います。研究能力の評価は、卒業研究発表会および卒業論文等をもとに行います。

1 令和5年(2023年)度専門教育科目学事日程

1年							2年																				
日	月	火	水	木	金	土	学 事	日	月	火	水	木	金	土	学 事												
						1	6,7 学部別ガイダンス 6-11 Web履修登録期間 7,8 健康診断 10 前期授業開始 12-18 履修登録確認・修正期間							1	6 学部別ガイダンス 6-11 Web履修登録期間 8 健康診断 10 前期授業開始 12-18 履修登録確認・修正期間												
4	2	3	4	5	6	7		8	4	2	3	4	5	6		7	8										
	9	10	①	11	①	12		①	13	①	14	①	15			9	10	①	11	①	12	①	13	①	14	①	15
月	16	17	②	18	②	19		②	20	②	21	②	22	月		16	17	②	18	②	19	②	20	②	21	②	22
	23	24	③	25	③	26		③	27	③	28	③	29			23	24	③	25	③	26	③	27	③	28	③	29
	30														30												
5		1	④	2	④	3	4	5	6	8-12 履修取消期間	5		1	④	2	④	3	4	5	6	8-12 履修取消期間						
	7	8	⑤	9	⑤	10	④	11	④		12	④	13		7	8	⑤	9	⑤	10		④	11	④	12	④	13
	14	15	⑥	16	⑥	17	⑤	18	⑤		19	⑤	20		14	15	⑥	16	⑥	17		⑤	18	⑤	19	⑤	20
月	21	22	⑦	23	⑦	24	⑥	25	⑥		26	⑥	27	月	21	22	⑦	23	⑦	24		⑥	25	⑥	26	⑥	27
	28	29	⑧	30	⑧	31	⑦								28	29	⑧	30	⑧	31		⑦					
6				1	⑦	2	⑦	3	19 実習オリエンテーション 26 実習オリエンテーション(予備日)	6				1	⑦	2	⑦	3	19 実習オリエンテーション 26 実習オリエンテーション(予備日)								
	4	5	⑨	6	⑨	7	⑧	8		⑧	9	⑧	10		4	5	⑨	6		⑨	7	⑧	8	⑧	9	⑧	10
	11	12	⑩	13	⑩	14	⑨	15		⑨	16	⑨	17		11	12	⑩	13		⑩	14	⑨	15	⑨	16	⑨	17
月	18	19	⑪	20	⑪	21	⑩	22		⑩	23	⑩	24	月	18	19	⑪	20		⑪	21	⑩	22	⑩	23	⑩	24
	25	26	⑫	27	⑫	28	⑪	29		⑪	30	⑪			25	26	⑫	27		⑫	28	⑪	29	⑪	30	⑪	
7						1	10-14 補講期間(5限) 28 前期授業最終日 31-8/4 前期期末試験(8/7, 8/8予備日)	7						1	10-14 補講期間(5限) 28 前期授業最終日 31-8/4 前期期末試験												
	2	3	⑬	4	⑬	5		⑫	6	⑫	7	⑫	8			2	3	⑬	4	⑬	5	⑫	6	⑫	7	⑫	8
	9	10	⑭	11	⑭	12		⑬	13	⑬	14	⑬	15			9	10	⑭	11	⑭	12	⑬	13	⑬	14	⑬	15
月	16	17	⑮	18	⑮	19		⑭	20	⑭	21	⑭	22	月		16	17	⑮	18	⑮	19	⑭	20	⑭	21	⑭	22
	23	24	⑯	25	⑯	26		⑮	27	⑮	28	⑮	29			23	24	⑯	25	⑯	26	⑮	27	⑮	28	⑮	29
	30	31	試											30	31	試											
8			1	試	2	試	3	試	4	試	5	8/9-9/24 夏季休業期間 10 追試験願の提出期限 22 オープンキャンパス 30-9/1 前期追試験・再試験期間	8			1	試	2	試	3	試	4	試	5	8/5-9/24 夏季休業期間 9 追試験願の提出期限 16-18 前期追試験・再試験期間 8/21~9/15 基礎看護学実習Ⅱ 22 オープンキャンパス		
	6	7	試	8	試	9	10	11	12		6		7	8	9	10	11	12									
	13	14	15	16	17	18	19		13	14	15		16	17	18	19											
月	20	21	22	23	24	25	26	月	20	21	22		23	24	25	26											
	27	28	29	30	試	31	試		27	28	29		30	31													
9					1	試	2	25 後期授業開始 25-29 後期履修登録状況確認・修正期間 26 教務オリエンテーション(5限)	9					1	試	2	25 後期授業開始 25-29 後期履修登録状況確認・修正期間										
	3	4	5	6	7	8	9			3	4	5	6	7	8	9											
	10	11	12	13	14	15	16			10	11	12	13	14	15	16											
月	17	18	19	20	21	22	23		月	17	18	19	20	21	22	23											
	24	25	①	26	①	27	①		28	①	29	①	30		24	25		①	26	①	27	①	28	①	29	①	30

【前期】

3年							4年							学 事	教養教育学事日程				
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土						
4	2	3	4	5	6	7	8	4	2	3	4	5	6	7	8	6 学部別ガイダンス 6-11 Web履修登録期間 8 健康診断 10 前期授業開始	6 学部別ガイダンス 7 実習オリエンテーション 6-11 Web履修登録期間 8 健康診断 10 前期授業開始	3 合同ガイダンス 4 英語力調査 5 入学式・新入生歓迎オリエンテーション 6 学部別ガイダンス(新入生) 6-11 (1)教養教育科目のWeb履修登録 (抽選対象科目及びその他科目) 8-10 合宿オリエンテーション 12 前期授業開始 12-18 (2)履修登録状況確認期間 英語検定試験による単位認定申請期間	
9	10	①	①	①	①	①	15	9	10	①	①	①	①	①	15	12-18 履修登録確認・修正期間	12-18 履修登録確認・修正期間		
16	17	②	②	②	②	②	22	16	17	②	②	②	②	②	22				
23	24	③	③	③	③	③	29	23	24	③	③	③	③	③	29				
30								30											
5	1	④	④	④	④	④	6	5	1	④	④	④	④	④	6	8-12 履修取消期間	8-12 履修取消期間 5/8~7/28 臨地実習FJ (Jはこれ以外の期間も行う) 5/8~6/9 公衆衛生看護学実習AB	8-12 履修取消期間 15-19 補講期間1(5限)	
7	8	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	13	7	8	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	13	8-12 履修取消期間	8-12 履修取消期間		
14	15	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	20	14	15	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	20				
21	22	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	27	21	22	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	27				
28	29	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧		28	29	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧					
6	4	5	⑨	⑨	⑨	⑨	10	6	4	5	⑨	⑨	⑨	⑨	10				
11	12	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	17	11	12	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	17			12-16 補講期間2(5限)	
18	19	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	24	18	19	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	24				
25	26	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫		25	26	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫					
7	2	3	⑬	⑬	⑬	⑬	8	7	2	3	⑬	⑬	⑬	⑬	8	10-14 補講期間(5限)	10-14 補講期間(5限)	3-7 履修取消期間(2T・後半科目)	
9	10	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	15	9	10	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	15	28 前期授業最終日	28 前期授業最終日	28 前期授業最終日	
16	17	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	22	16	17	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	22				
23	24	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	29	23	24	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	29				
30	31	試						30	31							31-8/4 前期期末試験(8/7, 8/8予備日)	31-8/4 前期期末試験		
8	6	7	試	8 試	9	10	11	12	8	6	7	8	9	10	11	12	9 全体実習オリエンテーション(10,予備日) 10 追試験願の提出期限	8/5-9/24 夏季休業期間 9 追試験願の提出期限	5-9/24 夏季休業期間 9 追試験願の提出期限
13	14	15	16	17	18	19			13	14	15	16	17	18	19		22 オープンキャンパス	22 オープンキャンパス	21 再試験・追試験受験許可者及び時間割発表 21-23 再試験受験 受付期間 21-25 集中講義予定期間(1) 30-9/1 前期追試験・再試験期間
20	21	22	23	24	25	26			20	21	22	23	24	25	26				
27	28	29	30	31					27	28	29	30	31						
9	3	4	5	6	7	8	9	9	3	4	5	6	7	8	9	12-13 領域別実習オリエンテーション(19-20,予備日)	25-29 後期履修登録状況確認・修正期間	4-8 集中講義予定期間(2) 11 前期成績発表 11-15 (1)教養教育科目のWeb履修登録 (抽選対象科目及びその他科目) 25 後期授業開始 25-29 (2)履修登録状況確認期間 英語検定試験による単位認定申請期間	
10	11	12	13	14	15	16			10	11	12	13	14	15	16		9/25~ 臨地実習(ABC,DE,GH)	9/25~ 臨地実習(ABC,DE,GH)	
17	18	19	20	21	22	23			17	18	19	20	21	22	23				
24	25	①	①	①	①	①	30	24	25	①	①	①	①	①	30				

1年								2年								
日	月	火	水	木	金	土	学 事	日	月	火	水	木	金	土	学 事	
10	9/25 ^①	9/26 ^①	9/27 ^①	9/28 ^①	9/29 ^①	30	9/25 後期授業開始 9/26 教務オリエンテーション(5限)	10	9/25 ^①	9/26 ^①	9/27 ^①	9/28 ^①	9/29 ^①	30	9/25 後期授業開始	
1	2 ^②	3 ^②	4 ^②	5 ^②	6 ^②	7		1	2 ^②	3 ^②	4 ^②	5 ^②	6 ^②	7		
8	9	10 ^③	11 ^③	12 ^③	13 ^③	14		8	9	10 ^③	11 ^③	12 ^③	13 ^③	14		
15	16 ^③	17 ^④	18 ^④	19 ^④	20 ^④	21	16-20 履修取消期間	15	16 ^③	17 ^④	18 ^④	19 ^④	20 ^④	21	16-20 履修取消期間	
22	23 ^④	24 ^⑤	25 ^⑤	26 ^⑤	27 ^⑤	28	28 開学記念日 28.29 川澄祭	22	23 ^④	24 ^⑤	25 ^⑤	26 ^⑤	27 ^⑤	28	28 開学記念日 28.29 川澄祭	
29	30 ^⑤	31 ^⑥						29	30 ^⑤	31 ^⑥						
11			1 ^⑥	2 ^⑥	3	4		11			1 ^⑥	2 ^⑥	3	4		
5	6 ^⑥	7 ^⑦	8 ^⑦	9 ^⑦	10 ^⑥	11		5	6 ^⑥	7 ^⑦	8 ^⑦	9 ^⑦	10 ^⑥	11		
12	13 ^⑦	14 ^⑧	15 ^⑧	16 ^⑧	17 ^⑦	18		12	13 ^⑦	14 ^⑧	15 ^⑧	16 ^⑧	17 ^⑦	18		
19	20 ^⑧	21 ^⑨	22 ^⑨	23 ^⑧	24 ^⑧	25		19	20 ^⑧	21 ^⑨	22 ^⑨	23 ^⑧	24 ^⑧	25		
26	27 ^⑨	28 ^⑩	29 ^⑩	30 ^⑨				26	27 ^⑨	28 ^⑩	29 ^⑩	30 ^⑨				
12					1 ^⑨	2		12						1 ^⑨	2	
3	4 ^⑩	5 ^⑪	6 ^⑪	7 ^⑩	8 ^⑩	9		3	4 ^⑩	5 ^⑪	6 ^⑪	7 ^⑩	8 ^⑩	9		
10	11 ^⑪	12 ^⑫	13 ^⑫	14 ^⑪	15 ^⑪	16		10	11 ^⑪	12 ^⑫	13 ^⑫	14 ^⑪	15 ^⑪	16		
17	18 ^⑫	19 ^⑬	20 ^⑬	21 ^⑫	22 ^⑫	23		17	18 ^⑫	19 ^⑬	20 ^⑬	21 ^⑫	22 ^⑫	23		
24	25 ^⑬	26	27	28	29	30	26-1/10 冬季休業期間	24	25 ^⑬	26	27	28	29	30	26-1/10 冬季休業期間	
31								31								
1	1	2	3	4	5	6		1	1	2	3	4	5	6	上旬 保健師選択コース説明会	
7	8	9	10	11 ^⑬	12 ^⑬	13	11 後期授業再開 11-12 補講期間(5限)	7	8	9	10	11 ^⑬	12 ^⑬	13	11 後期授業再開 11-12 補講期間(5限)	
14	15 ^⑭	16 ^⑭	17 ^⑭	18 ^⑭	19 ^⑭	20		14	15 ^⑭	16 ^⑭	17 ^⑭	18 ^⑭	19 ^⑭	20		
21	22 ^⑮	23 ^⑮	24 ^⑮	25 ^⑮	26 ^⑮	27	26 後期授業最終日	21	22 ^⑮	23 ^⑮	24 ^⑮	25 ^⑮	26 ^⑮	27	26 後期授業最終日	
28	29 試	30 試	31 試				29-2/2 後期期末試験	28	29 試	30 試	31 試				29-2/2 後期期末試験(2/5-6 試験予備日)	
2				1 試	2 試	3	7 追試験願の提出期限	2				1 試	2 試	3	9 追試験願の提出期限	
4	5	6	7	8 試	9 試	10	2/8・9 後期追試験・再試験期間	4	5 試	6 試	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17		11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24	2/19-3/4 基礎看護学実習Ⅰ	18	19 試	20 試	21 試	22	23	24	19-21 後期追試験・再試験期間	
25	26	27	28	29				25	26	27	28	29				
3					1	2		3					1	2		
3	4	5	6	7	8	9	下旬 結果発表(通知)	3	4	5	6	7	8	9	下旬 結果発表(通知)	
10	11	12	13	14	15	16	下旬 成績発表	10	11	12	13	14	15	16	下旬 成績発表	
17	18	19	20	21	22	23		17	18	19	20	21	22	23		
24	25	26	27	28	29	30		24	25	26	27	28	29	30		
31								31								

【後期】

3年							4年							学 事	教養教育学事日程			
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土					
10	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	30	9/25-11/2	10	9/25 ^①	9/26 ^①	9/27 ^①	9/28 ^①	9/29 ^①	30	9/25 後期授業開始	9/25 後期授業開始		
	1	2	3	4	5	6	9/25-11/2 臨地実習(ABCDEGH) 16-20 履修取消期間 28 開学記念日 28.29 川澄祭		1	2 ^②	3 ^②	4 ^②	5 ^②	6 ^②	7	9/25- (2)履修登録状況確認期間 9/19 英語検定試験による単位認定申請期間		
	8	9	10	11	12	13		14		8	9	10 ^③	11 ^③	12 ^③	13 ^③	14	9 スポーツの日【授業開講日】	
月	15	16	17	18	19	20		21	月	15	16 ^④	17 ^④	18 ^④	19 ^④	20 ^④	21	16-20 履修取消期間	
	22	23	24	25	26	27		28		22	23 ^⑤	24 ^⑤	25 ^⑤	26 ^⑤	27 ^⑤	28	28 開学記念日 28.29 川澄祭	
	29	30	31							29	30 ^⑥	31 ^⑥					28 開学記念日	
			1	2	3	4	13-12/22 臨地実習(ABCDEGH)				1 ^⑥	2 ^⑥	3	4	6-10 国家試験願書説明会	3 文化の日【授業開講日】		
11	5	6	7	8	9	10		11	11	5	6 ^⑦	7 ^⑦	8 ^⑦	9 ^⑦	10 ^⑦	11		
	12	13	14	15	16	17		18		12	13 ^⑧	14 ^⑧	15 ^⑧	16 ^⑧	17 ^⑧	18	13-17 補講期間4(5限)	
月	19	20	21	22	23	24		25	月	19	20 ^⑨	21 ^⑨	22 ^⑨	23 ^⑨	24 ^⑨	25		
	26	27	28	29	30					26	27 ^⑩	28 ^⑩	29 ^⑩	30 ^⑩				
					1	2	25-1/8 冬季休業期間						1 ^⑩	2	26-1/10 冬季休業期間	11-15 履修取消期間(後半科目) 11-15 補講期間5(5限) 25-1/9 冬季休業期間		
12	3	4	5	6	7	8		9	12	3	4 ^⑪	5 ^⑪	6 ^⑪	7 ^⑪			8 ^⑪	9
	10	11	12	13	14	15		16		10	11 ^⑫	12 ^⑫	13 ^⑫	14 ^⑫			15 ^⑫	16
月	17	18	19	20	21	22		23	月	17	18 ^⑬	19 ^⑬	20 ^⑬	21 ^⑬			22 ^⑬	23
	24	25	26	27	28	29		30		24	25 ^⑭	26	27	28			29	30
	31									31								
	1	2	3	4	5	6	9-2/2 臨地実習(ABCDEGH)		1	2	3	4	5	6	11 後期授業再開 11-12 補講期間(5限) 26 後期授業最終日 29-30 後期期末試験	10 後期授業再開 10-11 補講期間6(5限) 12 大学入学共通テスト準備のため休講 13-14 大学入学共通テスト ※12-14(滝子キャンパス立入禁止)		
1	7	8	9	10	11	12		13	1	7	8	9	10	11		12	13	26 後期授業最終日
月	14	15	16	17	18	19		20	月	14	15 ^⑮	16 ^⑮	17 ^⑮	18 ^⑮		19 ^⑮	20	29-30 後期期末試験
	21	22	23	24	25	26		27		21	22 ^⑯	23 ^⑯	24 ^⑯	25 ^⑯		26 ^⑯	27	29-2/2 後期期末試験
	28	29	30	31						28	29 試	30 試	31					
				1	2	3	2 後期授業最終日					1	2	3	2 追試験願書の提出期限 8-9 後期追試験・再試験期間 中旬 国家試験 下旬 卒業判定・結果発表	7 追試験願書の提出期限		
2	4	5	6	7	8	9		10	2	4	5	6	7	8 試		9 試	10	9 再試験・追試験受験許可者及び時間割発表 再試験受験 受付期間
	11	12	13	14	15	16		17		11	12	13	14	15		16	17	19-21 後期追試験・再試験期間
月	18	19	20	21	22	23		24	月	18	19	20	21	22		23	24	25-26 前期日程入学試験(滝子キャンパス立入禁止)
	25	26	27	28	29					25	26	27	28	29				
					1	2	下旬 結果発表(通知) 下旬 成績発表						1	2	1 後期成績発表 8 中期日程入学試験(滝子キャンパス立入禁止) 12 後期日程入学試験(滝子キャンパス立入禁止)			
3	3	4	5	6	7	8		9	3	3	4	5	6	7		8	9	
	10	11	12	13	14	15		16		10	11	12	13	14		15	16	
月	17	18	19	20	21	22		23	月	17	18	19	20	21		22	23	25 卒業式
	24	25	26	27	28	29		30		24	25	26	27	28		29	30	
	31									31								

2 専門教育科目履修要領

(1)-1 カリキュラム表（令和4年度以降入学者）

区分	授業科目	担当教員	配当年次	授業時間数	授業形態	単位数			
						必修	選択	自由	
専門基礎科目	コミュニケーション	臨床国際コミュニケーション	エストレルヤド、アポロニア	2前	30	演習	1		
	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造と機能Ⅰ	窪田、飛田、田尻	1前	30	講義	2		
		人体の構造と機能Ⅱ	薊	1前	30	講義	2		
		臨床栄養学	仲森、山田(悠)	2前	30	講義	2		
		疾病・治療論Ⅰ	薊、香月、窪田	1後	30	講義	2		
		疾病・治療論Ⅱ	薊、日比、岩尾、富田、鈴木(一)、坡下、堀田(祐)、竹本、大澤、榊原、真川、堀田(康)	2前	45	講義	3		
		疾病・治療論Ⅲ	薊、李、黒柳、川口、河、鈴木(伸)	1後	30	講義	2		
		疾病・治療論Ⅳ	窪田、江崎、神谷、高橋、松尾、伊藤(孝)	1後	30	講義	2		
		疾病・治療論Ⅴ	間瀬、片野、西川、藤岡、大喜多、中村、奥山、山田(敦)、中口、水野、川嶋、山中、谷川	2前	30	講義	2		
		疾病・治療論Ⅵ	薊、矢野、樋口、安岡	2前	30	講義	2		
	臨床発達心理学	長谷川	2前	30	講義	2			
	健康と社会	社会保障制度論	村上	2後	30	講義	2		
		医療社会学	河口	2前	30	講義	2		
		ヘルスプロモーション	金子	2前	15	講義	1		
		グローバルヘルス	樋口	1前	15	講義	1		
		疫学・保健統計学Ⅰ	江、金子、早坂、吉野	1前	15	講義	1		
		疫学・保健統計学Ⅱ	樋口、金子、江、吉野	2後	30	講義	2		
	保健統計分析*	※	3前	30	講義		2		

区分	授業科目	担当教員	配当年次	授業時間数	授業形態	単位数			
						必修	選択	自由	
専 門 科 目	看護の基礎	看護学概論Ⅰ	矢野、吉川、中嶋	1前	30	講義	2		
		看護学概論Ⅱ	安東、横井	2前	15	講義	1		
		基礎看護技術Ⅰ	宮内、樫野、秋山(直)、山口(琴)、澤田(美)、徳元	1後	60	演習	2		
		フィジカルアセスメント	秋山(直)、宮内、樫野、徳元	2前	30	演習	1		
		看護過程論	樫野、秋山(直)、徳元	2前	30	演習	1		
		基礎看護技術Ⅱ	安岡、吉川、中嶋	2通	60	演習	2		
		看護演習	※	3前	45	実習	1		
	生涯発達と看護	母性看護学概論	脇本	2前	15	講義	1		
		母性看護論	田中、(未定)	2後	30	講義	2		
		母性看護援助論	※	3前	30	演習	1		
		小児看護学概論	山邊	2前	15	講義	1		
		小児看護論	大橋、遠藤、渡邊(梨)	2後	30	講義	2		
		小児看護援助論	※	3前	30	演習	1		
		成人看護学概論	明石、中井(智)	1後	15	講義	1		
		高齢者看護学概論	平田	1後	15	講義	1		
		高齢者看護論	平田、小山、(未定)	2前	30	講義	2		
		高齢者看護援助論	小山、平田、(未定)	2後	30	演習	1		
		セルフマネジメント看護論	安東、横井、富成	2前	15	講義	1		
		セルフマネジメント看護援助論	小田嶋、横井、富成	2後	30	演習	1		
		クリティカルケア看護論	(未定)	2後	15	講義	1		
		周術期看護援助論	※	3前	30	演習	1		
		緩和ケア看護論	益田、小田嶋、佐橋、鬼塚、古川、伊藤(麻)	2後	15	講義	1		
		リハビリテーション看護論	※	3前	15	講義	1		
		精神看護学概論	香月	1後	15	講義	1		
		精神看護論	澤田(華)、桐山	1後	30	講義	2		
		精神看護援助論	桐山、澤田(華)、今泉	2前	30	演習	1		
		地域・在宅看護論	※	3前	30	講義	2		
	災害看護論	※	3前	15	講義	1			
	公衆衛生看護学概論	門間	2前	30	講義	2			
	健康教育方法論	尾崎、雑子	2後	30	講義	2			

区分	授業科目	担当教員	配当年次	授業時間数	授業形態	単位数			
						必修	選択	自由	
専門科目	看護の統合	看護提供システム論	※	4前	15	講義	1		
		チーム医療と医療安全	※	4通	30	演習	1		
		看護研究Ⅰ	※	3通	30	演習	1		
		看護研究Ⅱ	※	4通	60	演習	2		
	看護の発展	地域診断方法論*	※	3通	30	講義		2	
		救急看護援助論	※	3前	30	講義		2	
		次世代健康支援看護学	※	4通	30	講義		2	
		コミュニティ・ヘルスケアⅠ◇	山口(琴)、明石、金子、井上(高)、他	2通	30	講義		2	
		コミュニティ・ヘルスケアⅡ◇	※	4通	60	演習		2	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	宮内、樫野、秋山(直)、山口(琴)、澤田(美)、徳元	1後	45	実習	1		
		基礎看護学実習Ⅱ	樫野、宮内、秋山(直)、山口(琴)、澤田(美)、徳元	2通	90	実習	2		
		在宅看護学実習	※	3後	90	実習	2		
		急性期看護学実習	※	3後	90	実習	2		
		慢性期看護学実習	※	3後	90	実習	2		
		高齢者看護学実習	※	3後	45	実習	1		
		高齢者看護学統合実習	※	4前	45	実習	1		
小児看護学実習		※	3後	90	実習	2			
母性看護学実習		※	3後	90	実習	2			
精神看護学実習		※	3後	90	実習	2			
看護管理学実習		※	4前	90	実習	2			
看護学統合実習	※	4通	90	実習	2				
多文化健康支援実習	※	4前	60	実習	2				

区分	授業科目	担当教員	配当年次	授業時間数	授業形態	単位数			
						必修	選択	自由	
専 門 科 目	公 衆 衛 生 看 護 学	公衆衛生看護活動論Ⅰ#	※	3前	30	講義			2
		公衆衛生看護活動論Ⅱ#	※	3前	30	講義			2
		公衆衛生看護活動論Ⅲ#	※	3前	15	講義			1
		公衆衛生看護技術#	※	4前	15	講義			1
		公衆衛生看護管理論Ⅰ#	※	4前	30	講義			2
		公衆衛生看護管理論Ⅱ#	※	4後	30	講義			2
		保健医療福祉行政論Ⅰ#	※	3前	30	講義			2
		保健医療福祉行政論Ⅱ#	※	4後	15	講義			1
		公衆衛生看護学実習A#	※	4通	90	実習			2
		公衆衛生看護学実習B#	※	4通	135	実習			3

※ 令和5年度は開講しない科目

* 保健師国家試験受験資格取得科目の履修生はすべて履修すること/内2単位は卒業要件に含まれる

科目の履修は、保健師国家試験受験資格取得科目の履修生に限る

◇ コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの履修科目（履修制度の詳細は27頁を参照）

（用語の説明）

授業科目

- ・授業科目には「必修科目」、「選択科目」、および「自由科目」がある。
- ・「必修」の欄に単位数の記載がある授業科目は「必修科目」である。必修科目とは看護学を学ぶ上で必要不可欠な専門教育科目であり、卒業要件（18ページ(5)参照）として、必ず履修しなければならない。
- ・「選択」の欄に単位数の記載がある授業科目は「選択科目」であり、選択により卒業要件として修得必要単位数を履修しなければならない。
- ・「自由」の欄に単位数の記載がある授業科目は「自由科目」であり、卒業要件である修得必要単位数には算入されない授業科目である。

授業時間数および単位数

- ・1単位とは、大学での授業と自宅学習を合わせた45時間分の学修内容であり、講義、演習、実習等の区分によって1単位あたりの時間数が異なる（履修規程第15条を参照）。
- ・本学の授業は45分をもって1時間としており、時間割上の1コマ（90分）の授業時間数は2時間と数える。従って授業時間数が30時間の授業科目の場合、開講される授業は15コマである。

担当教員

- ・「担当教員」の欄には当該の授業科目を担当する全教員を記載しており、原則として各欄の筆頭者が科目責任者である。

(1)-2 旧課程カリキュラム表（令和3年度以前入学者）

区分	授業科目	担当教員	配当 年次	授 業 時間数	授業 形態	単 位 数		
						必修	選択	自由
専 門 基 礎 科 目	臨床国際コミュニケーションⅠ	※	2 前	30	演習	1		
	臨床国際コミュニケーションⅡ	井上(眞)	4 後	30	演習		1	
	人体の構造と機能Ⅰ	※	1 前	30	講義	2		
	人体の構造と機能Ⅱ	※	1 前	30	講義	2		
	臨床栄養学	※	2 前	30	講義	2		
	疾病・治療論Ⅰ	※	1 後	30	講義	2		
	疾病・治療論Ⅱ	※	2 前	45	講義	3		
	疾病・治療論Ⅲ	※	1 後	30	講義	2		
	疾病・治療論Ⅳ	※	1 後	30	講義	2		
	疾病・治療論Ⅴ	※	2 前	30	講義	2		
	疾病・治療論Ⅵ	※	2 前	30	講義	2		
	臨床発達心理学	※	2 前	30	講義	2		
	社会保障制度論	※	2 後	30	講義	2		
	医療社会学	※	2 前	30	講義	2		
	健康科学	※	2 前	30	演習	1		
	国際保健活動論	※	2 後	15	講義	1		
	疫学	※	2 後	30	講義	2		
保健統計学Ⅰ	※	1 前	15	講義	1			
保健統計学Ⅱ*	樋口、金子、江、竹村		3 前	30	演習		1	
保健医療福祉行政論**	門間、佐野、岡本、戸田		3 前	30	講義			2

区分	授業科目	担当教員	配当 年次	授 業 時間数	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	自由	
専 門 科 目	看 護 の 基 礎	看護学概論Ⅰ	※	1 前	30	講義	2		
		看護援助論ⅠA	※	1 後	45	実習	1		
		看護援助論ⅠB	※	2 前	45	実習	1		
		看護援助論ⅠC	※	2 通	45	実習	1		
		看護援助論ⅠD	※	2 前	30	演習	1		
		看護学概論Ⅱ	※	1 後	15	講義	1		
		看護援助論Ⅱ	※	1 後	30	演習	1		
		看護学概論Ⅲ	※	2 前	30	講義	2		
		看護援助論Ⅲ	※	2 後	30	演習	1		
		看護学概論Ⅳ	※	1 後	30	講義	2		
		看護援助論実習Ⅰ	※	1 後	45	実習	1		
		看護援助論実習Ⅱ	※	2 通	90	実習	2		
	生 涯 発 達 と 看 護	生涯発達看護論Ⅰ	※	2 後	30	講義	2		
		生涯発達看護援助論Ⅰ	田中、藪田、(未定)	3 前	30	演習	1		
		生涯発達看護論Ⅱ	※	2 後	30	講義	2		
		生涯発達看護援助論Ⅱ	遠藤、大橋、渡邊(梨)	3 前	30	演習	1		
		生涯発達看護論Ⅲ	※	2 前	30	講義	2		
		生涯発達看護援助論Ⅲ	※	2 後	30	演習	1		
		臨地実習 A (生涯発達母性系)	田中、(未定)、藪田、(未定)、脇本	3 後	90	実習	2		
	臨地実習 B (生涯発達小児系)	大橋、遠藤、渡邊(梨)	3 後	90	実習	2			
	臨地実習 C (生涯発達老年系)	小山、平田、(未定)	3 後	90	実習	2			
	健 康 問 題 と 看 護	クリティカルケア看護論	※	2 後	15	講義	1		
		クリティカルケア看護援助論	中井(智)、森本、明石、(未定)、遠藤、桐山、小山	3 前	30	演習	1		
		セルフマネジメント看護論	※	2 後	15	講義	1		
		セルフマネジメント看護援助論	小田嶋、横井、富成、大橋、遠藤	3 前	30	演習	1		
		リハビリテーション看護論	横井、小田嶋、益田、森本、小山、香月、安東	3 前	30	演習	1		
		精神療養生活看護論	※	2 前	30	演習	1		
		地域療養生活看護論	※	2 後	30	講義	2		
地域療養生活看護援助論		小山、平田、秋山(明)、井上(高)、城川	3 前	30	演習	1			
緩和ケア看護論	益田、小田嶋、鬼塚、佐橋、古川、伊藤(麻)	3 前	30	演習	1				

区分	授業科目	担当教員	配当 年次	授 業 時間数	授業 形態	単 位 数			
						必修	選択	自由	
専	健康問題と看護	臨地実習 D (クリティカルケア系)	中井(智)、森本、明石	3 後	90	実習	2		
		臨地実習 E (セルフマネジメント系)	小田嶋、横井、富成	3 後	90	実習	2		
		臨地実習 F (緩和・終末期系)	益田、小田嶋、横井、高崎、森本	4 前	90	実習	2		
		臨地実習 G (精神療養生活系)	澤田(華)、桐山、今泉、香月	3 後	90	実習	2		
		臨地実習 H (地域療養生活・リハビリ系)	秋山(明)、井上(高)、城川	3 後	90	実習	2		
門	看護の統合	看護演習	横井、小田嶋、富成、森本、中井(智)、明石、小山、遠藤、大橋、渡邊(梨)、田中、藪田、(未定)澤田(華)、今泉、迫間	3 前	45	実習	1		
		看護技術リファレンス	准教授、講師、助教、助手	4 通	60	演習	2		
		看護提供システム論Ⅰ	安岡、吉川、中嶋、村田、加藤	4 前	15	講義	1		
		看護提供システム論Ⅱ	井上(高)、川谷、荒川	3 前	15	講義	1		
		看護研究Ⅰ	明石、鏡、指導教員	3 通	30	演習	1		
		看護研究Ⅱ	指導教員	4 通	60	演習	2		
		臨地実習Ⅰ(看護学統合実習Ⅰ:看護管理実習)	安岡、吉川、中嶋	4 前	90	実習	2		
臨地実習Ⅱ(看護学統合実習Ⅱ:看護統合実習)	指導教員	4 通	90	実習	2				
科	看護の発展	健康支援看護学Ⅰ	田中	4 通	15	講義		1	
		健康支援看護学Ⅱ	山邊、大橋、遠藤、渡邊(梨)	4 通	15	講義		1	
		健康支援看護学Ⅲ	中井(智)、森本、明石、笹野、服部	3 前	30	演習		1	
		健康支援看護学Ⅳ	小田嶋、横井	4 通	15	講義		1	
		健康支援看護学Ⅴ	平田、小山	4 通	15	講義		1	
		ケアシステム看護学Ⅰ	宮内	4 通	15	講義		1	
		ケアシステム看護学Ⅱ	安岡、吉川、中嶋	4 通	15	講義		1	
		ケアシステム看護学Ⅲ	香月、桐山、澤田	4 通	15	講義		1	
		ケアシステム看護学Ⅳ	金子、樋口、江	4 通	15	講義		1	

専 門 科 目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	※	2 後	30	講義	2			
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	※	2 後	30	講義	2			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ*	尾崎、中井(久)		3 前	30	講義		2	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ**	尾崎、門間、中井(久)、山口(孝)		3 前	30	講義			2
		公衆衛生看護活動論Ⅳ**	尾崎、門間、中井(久)、松浦		3 前	30	講義			2
		公衆衛生看護活動論Ⅴ#	尾崎、門間、中井(久)		4 通	30	講義			2
		公衆衛生看護管理論Ⅰ#	門間、中井(久)、幾田、岡本		4 通	30	講義			2
		公衆衛生看護管理論Ⅱ#	門間、尾崎、雑子		4 通	30	講義			2
		公衆衛生看護学実習A#	尾崎、門間、中井(久)		4 前	135	実習			3
		公衆衛生看護学実習B#	尾崎、門間、中井(久)		4 通	90	実習			2

ケ ア 卒 前 教 育	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ヘ ル ス ケ ア	コミュニティ・ヘルスケア基礎◇	※	2 通	30	講義			2
		コミュニティ・ヘルスケア応用◇	山口(琴)、明石、金子、井上(高)、他	3 通	30	講義			2
		コミュニティ・ヘルスケア発展◇	山口(琴)、明石、金子、井上(高)、他	4 通	90	実習			2
		コミュニティ・ヘルスケア実践◇	山口(琴)、明石、金子、井上(高)、他	4 通	90	実習			2

※ 令和5年度は開講しない科目

* 保健師国家試験受験資格取得科目の履修生はすべて履修すること/内2単位は卒業要件に含まれる

** 保健師国家試験受験資格取得科目の履修生はすべて履修すること

科目の履修は、保健師国家試験受験資格取得科目の履修生に限る

◇ コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの履修科目（履修制度の詳細は27頁を参照）

(用語の説明)

授業科目

- ・授業科目には「必修科目」、「選択科目」、および「自由科目」がある。
- ・「必修」の欄に単位数の記載がある授業科目は「必修科目」である。必修科目とは看護学を学ぶ上で必要不可欠な専門教育科目であり、卒業要件（18ページ(5)参照）として、必ず履修しなければならない。
- ・「選択」の欄に単位数の記載がある授業科目は「選択科目」であり、選択により卒業要件として修得必要単位数を履修しなければならない。
- ・「自由」の欄に単位数の記載がある授業科目は「自由科目」であり、卒業要件である修得必要単位数には算入されない授業科目である。

授業時間数および単位数

- ・1単位とは、大学での授業と自宅学習を合わせた45時間分の学修内容であり、講義、演習、実習等の区分によって1単位あたりの時間数が異なる（履修規程第15条を参照）。
- ・本学の授業は45分をもって1時間としており、時間割上の1コマ（90分）の授業時間数は2時間と数える。従って授業時間数が30時間の授業科目の場合、開講される授業は15コマである。

担当教員

- ・「担当教員」の欄には当該の授業科目を担当する全教員を記載しており、原則として各欄の筆頭者が科目責任者である。

(2) 履修上の注意事項

以下の注意事項に留意して履修すること。なお、履修登録に際しても、これらの点を踏まえること。

- ① 既に単位を修得した授業科目を2回以上履修することはできない。
- ② 必修科目は配当年次において必ず履修しなければならない。
- ③ 選択科目は配当年次において履修することが望ましい。
- ④ 1年次においては2年次以降配当科目を、2年次においては3年次以降配当科目を、3年次においては4年次配当科目を履修することはできない。
- ⑤ 同一授業時間の授業科目を重複して登録した場合は、期末試験受験の有無にかかわらず、その授業科目双方とも無効とする。
- ⑥ 2学期にわたり開講される授業科目の履修登録は、前の学期に行う。前の学期と後の学期の開講曜日・時間帯が異なる場合もあるので注意を要する。
- ⑦ 看護学実習は、前年次までに配当された看護学実習の単位をすべて修得していなければ、履修することはできない。
- ⑧ 感染症の抗体価が本学の定める基準値以下の場合は、ワクチン接種を受けなければ看護学実習を履修することができない。ただし、ワクチン接種が不応答など正当な理由がある場合はその限りではない。
- ⑨ 保健師国家試験受験資格取得を希望する学生は、*、**、#を付した科目をすべて選択しなければいけない。

(3) 欠席について

授業には毎回出席することが望ましいですが、やむを得ない事情（忌引きその他特別の理由）で欠席し、かつ学修上の補填を希望する場合は、基本的に特別欠席届に必要な書類（会葬礼状、診断書など）を添付し、担当教員および科目責任者の確認印を得た後、すみやかに看護学部事務室へ提出してください。欠席理由の如何を問わず、授業科目の成績評価等に関する取扱いについては科目を担当する教員の判断によります。授業欠席の取扱いについても教員の判断に一任されますので、担当教員の了解が得られなかった場合は出席扱いとなりません。状況に応じて、学修上の補填（授業資料の配布、課題レポートを課す、補講等）を行いますので、担当教員の指示に従ってください。特別欠席届の用紙は看護学部事務室でお渡しします（学生ポータルシステムの「学内共有ファイル」よりダウンロード可能）。

特別欠席届

令和 年 月 日

学 長 様

看護学部学年

学籍番号.....

氏 名.....

下記の理由により欠席 しま す のでお届けします。
しま した

記

欠席の理由

欠席の期間 令和 年 月 日から
令和 年 月 日まで

科 目 名	月/日 (曜日)	担当教員	確認欄 認印又はサイン	科目責任者	確認欄 認印又はサイン

- (注) 1 欠席の理由を具体的に記入し、理由が分かる証明書等を添付すること。
2 看護学部は本様式を使用してください。
3 授業欠席の取り扱いについては担当教員の判断に一任されますので、「確認欄」に教員の認印又はサインが得られなかった場合は出席扱いとはなりません。
4 該当日の授業担当教員と科目責任者が異なる場合、「確認欄」には両方のサインが必要です。

【特別欠席に該当する事例】 忌引き、疾病、事故、天災、その他特別な理由

※部活動、ゼミ活動、インターンシップ、就職活動、海外渡航、授業の重複等を理由とする欠席は該当しません。

(4) 進級要件

学生は、2年次の終了時に、1・2年次に配当された専門教育科目の必修科目の単位をすべて修得していなければ、進級することはできない。

(5) 卒業要件

【平成26～29年度入学生】

卒業要件は、教養教育科目26単位以上、専門教育科目100単位以上、計126単位以上である。

【平成30年度～令和3年度入学生】

卒業要件は、教養教育科目30単位以上、専門教育科目100単位以上、計130単位以上である。

【令和4年度以降入学生】

卒業要件は、教養教育科目30単位以上、専門教育科目101単位以上、計131単位以上である。

〈教養教育科目〉

「教養教育科目履修要項」を参照のこと。

〈専門教育科目〉

【令和3年度以前入学生】 専門教育科目100単位以上の内訳は、専門基礎科目31単位、専門科目67単位（臨地実習23単位含む）の必修科目と、専門基礎科目および専門科目のいずれか2単位の選択科目である。

【令和4年度以降入学生】 専門教育科目101単位以上の内訳は、専門基礎科目31単位、専門科目68単位（臨地実習23単位含む）の必修科目と、専門基礎科目および専門科目のいずれか2単位の選択科目である。

(6) 履修登録

ア. 履修登録（その1）

(ア) 履修登録手続き

学生は、各自Web履修システムを使って、各学期の始めに、その学期において履修しようとする選択科目の登録手続きを行う。必修科目は登録の手続きを要さない。

〈履修登録期間〉 …… **2023年4月6日(木)～2023年4月11日(火)**

〈履修登録確認・修正期間〉

前期または通年科目 …… **2023年4月12日(水)～2023年4月18日(火)**

後期科目 …… **2023年9月25日(月)～2023年9月29日(金)**

(イ) 履修登録上の留意事項

- ・上記の登録期間を過ぎた場合は、履修できない。
- ・上記の登録期間経過後は、授業科目の変更、追加、取り消しはできない。
- ・後述する GPA 制度が導入されているため、学事日程に定められた期日内に限り、履修登録科目の中止(取消)を認める。

イ. 履修登録（その2－再履修）

不合格または失格（受験資格を失うこと）となった授業科目については、後年度（後学期）において再履修しなければ、受験資格を認めない。

再履修しようとするものは、必ず担当教員の許可を得なければならない。その他の手続きについては、前項「ア．履修登録（その1）」に準ずる。

ウ．集中講義科目の履修登録手続き

科目の配当学期にかかわらず、全て前期に履修登録する。

エ．CAP制

1単位当たりに必要な学修時間（45時間）を確保することで単位の実質化を図るとともに、年間の適切な履修により学修の質を向上させることを目的に、1年間又は1学期間に履修科目単位数の登録上限（CAP制）を設ける。

1年次（平成27年度入学以降）のみの適用とし、各学期に登録することができる科目は、下記の科目を除き、教養教育科目、専門教育科目あわせて前期27単位、後期25単位とする。

- ・教養教育科目：集中講義科目、単位認定制度による履修単位（教養教育履修要項参照）、地域参加型学習（医薬看連携地域参加型学習）、初年次教育科目
- ・専門教育科目：集中講義科目（基礎看護学実習Ⅰ）

(7) 試験および成績

ア．期末試験

- ・学期末に行う（2学期にわたり開講される授業科目にあつては、後の学期末に行う）。ただし担当教員が特に必要と認めた場合には、学期末以外に行うことがある。
- ・このほかレポートその他の方法をもって試験に代えることがある。
- ・期末試験の時間割は、実施の約10日前に発表することを通例とする。

イ．期末試験の受験資格

次のいずれかに該当する授業科目については、受験資格を認めない。

- ① 学期中の出席時間数が、原則として全時間数の7割（看護学実習の場合は8割）に満たない科目
- ② 履修登録されていない選択科目
- ③ 既に単位を修得している科目

ウ．追試験の受験資格

- ・「天災・入院・公共交通機関の途絶」、「2親等以内の葬儀（通夜および告別式）」およびその他やむを得ない事情のために期末試験を受けられなかった場合は、追試験を願い出ることができる。
- ・上記以外の場合は、原則として追試験は行わない。
- ・願い出る者は、期末試験終了後3日以内（休日を除く）に追試験願（看護学部事務室において交付）に診断書や事故証明書等、その理由を証明する書類を添え、看護学部事務室に提出しなければならない。
- ・追試験を認めるか否かは、教授会の議を経て知らせる。

エ．再試験の受験資格

- ・試験に不合格となった科目については、担当教員が再度の試験実施によって単位修得の可能性があると認めた場合は、再試験を願い出ることができる。

- ・ 願い出る者は、指定された期間内に、再試験受験願（看護学部事務室において交付）を看護学部事務室に提出しなければならない。詳細は掲示により知らせる。

オ. 成績の評価

(ア) GPA (Grade Point Average)制度の導入

各学期の授業科目の成績を5段階(秀、優、良、可、不可)で評価し、それぞれに対して、以下の Grade Point (GP) を与える。

評価 (成績表示)	評価点	単位付与	GP	備考
秀	90～100点	合格	4.0	
優	80～89点	合格	3.0	
良	70～79点	合格	2.0	
可	60～69点	合格	1.0	
不可	59点以下	不合格	0	
欠席	—	不合格	0	
失格	—	不合格	0	出席不足等で受験資格のないもの

*履修中止 (取消) : 学事日程に定められた期日内に限り、履修登録科目の中止(取消)を認める。履修を中止した科目には、成績通知書に表示をする。

(イ) GPA 計算式 ※GPAの計算は、小数点以下第3位を四捨五入する。

- ① 学期 GPA $\frac{\text{当該学期における}[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得た GP})] \text{の総和}}{(\text{当該学期に履修登録した単位数}) \text{の総和}}$
- ② 累積 GPA $\frac{\text{各学期における}[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得た GP})] \text{の累計}}{(\text{各学期に履修登録した単位数}) \text{の累計}}$

※GPA 適用除外科目：自由科目、履修中止したもの、成績評価が「認定」のもの、入学前既修得単位認定、他大学との単位互換等で修得した科目、英語検定試験による単位認定、ボランティア科目

(ウ) GPA の成績通知書への記載等

成績通知書に、学期 GPA、累積 GPA を記載する。成績証明書には記載しない。

(エ) 個別学習指導について

各学期終了時に GPA1.50 未満の学生に対しては、指導教員により個別学習指導（面接）を行う。

(オ) 再試験を行った場合、その成績は、最高 60 点を限度として採点する。

カ. 成績の通知

期末試験終了後に「合格」、「不合格」を発表し、後日、学生ポータルシステムより成績を通知する。

キ. 成績疑問票

- (ア) 成績評価について疑問のある場合に、その評価の内容を知ることができる制度である。
- (イ) 成績評価に関して疑問のある学生は、看護学部事務室において配布される成績疑問票を、成績発表後提出期限内に看護学部事務室に提出する。提出期間等は、掲示板あるいはポータルサイトへ掲載する。なお、成績評価とは、履修科目の最終成績を指し、学生は、提示された期日以後に学生ポータルシステムによって閲覧できる。

- (ウ) 学生から提出された成績疑問票は、受け付けてから原則1週間以内に担当教員が回答し、看護学部事務室に提出される。看護学部事務室は、提出された成績疑問票回答を速やかに学生に提示する。
- (エ) 担当教員からの回答の内容を確認した学生は、成績疑問票に署名する。回答の内容を承諾できない場合は、担当教員から直接説明を受ける。必要に応じて教務委員長が介入することもある。
- (オ) 成績疑問票は、記載内容のプライバシーを保護した上で、成績評価方法の改善に活用される。

(8) 試験の注意事項

以下の点に留意し、試験監督者の指示に従い、不正行為のないように受験すること。

- ① 試験場への入室は、当該試験科目を履修登録している者に限る。
- ② 学生証を机上の見やすい所へ置くこと。
※学生証を忘れた場合は、学部事務室で臨時の「身分確認証」の発行を受ける。
- ③ 机には、あらかじめ許可されているものを除き、原則として筆記具（鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム）以外の用具を置いてはいけない。机の中のもの、すべて床上に置くか、鞆の中にしまうこと。
- ④ 携帯電話等は必ず電源を切り、鞆の中に収納すること。試験時間中に携帯電話等を身に付けていたり、机の中に入れていた場合は、たとえ操作していなくても不正行為と見なす。
- ⑤ 試験開始後20分以上経過したときは入室できない。
- ⑥ 試験開始後30分以上経過しなければ退室できない。
- ⑦ 答案用紙を持ち帰った場合、不正行為とみなす。
- ⑧ 監督者の注意に違反した者には、退場を命ずることがある。
- ⑨ その他、試験実施にあたっての指示・注意事項は掲示等で知らせる。

万一不正行為を行った場合は、教授会の議を経て学則第66条及び第67条の規定による懲戒（戒告、停学、退学）処分の対象とする。また、その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする等、相応の処置がとられる。詳細は、定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針を参照すること。

(9) レポート課題作成時の注意

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものである。他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要であるが、それを引用する場合はルールがある。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要がある。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となる。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出すること。

(10)-1 保健師国家試験受験資格取得科目の履修（令和4年度以降入学者）

ア. 履修科目

保健師国家試験受験資格を取得するためには、下記の29単位をすべて修得しなければならない。

イ. 履修できる学生数

保健師国家試験受験資格取得に必要な科目を履修することができる学生の数は、原則として、20名以内とする。

保健師国家試験受験資格取得科目

	履修科目	単位数	時間数
専門基礎科目	疫学・保健統計学Ⅰ	1	15
	疫学・保健統計学Ⅱ	2	30
	保健統計分析	2	30
専門科目	公衆衛生看護学概論	2	30
	健康教育方法論	2	30
	地域診断方法論	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	1	15
	公衆衛生看護技術	1	15
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	2	30
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	2	30
	保健医療福祉行政論Ⅰ	2	30
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1	15
	公衆衛生看護学実習A	2	90
	公衆衛生看護学実習B	3	135
		合計	29

ウ. 保健師国家試験受験資格取得科目の履修希望手続きと審査・選考

- ① 保健師国家試験受験資格取得科目の履修については、入学時のガイダンスで説明を行う。
- ② 審査・選考の手続きについては、2年次の後期に説明を行う。
- ③ 履修希望の有無については、2年次の1月に調査を実施する。
- ④ 保健師国家試験受験資格取得科目の履修を希望する学生は、希望学生を対象とした説明会に参加したうえで、保健師国家試験受験資格取得科目履修願を看護学部事務室に提出する。説明会実施日と履修願提出期間は掲示で知らせる。
- ⑤ 保健師国家試験受験資格取得科目の履修届を提出した学生に対して、次の方法で審査し許可者を選考する。

(選考の時期)

3年次前期までに審査・選考を行う。

(選考方法)

- 1、2年次開講科目の履修状況とその成績の審査、および面接とする。

(選考基準)

- ・ 2年次終了までに、教養教育科目の卒業要件である単位をすべて修得していること。
- ・ 1、2年次までの学習において、学習への意欲と成績の向上が認められること。
- ・ 保健師国家試験受験資格取得科目の履修に対する意欲や向上心が認められること。

(審査・選考の結果)

保健師国家試験受験資格取得科目履修の許可者は掲示で発表する。

(10)-2 保健師国家試験受験資格取得科目の履修（令和3年度以前入学者）

ア. 履修科目

保健師国家試験受験資格を取得するためには、下記の27単位をすべて修得しなければならない。

イ. 履修できる学生数

保健師国家試験受験資格取得に必要な科目を履修することができる学生の数は、原則として、20名以内とする。

保健師国家試験受験資格取得科目

	履修科目	単位数	時間数
専門基礎科目	疫学	2	30
	保健統計学Ⅰ	1	15
	保健統計学Ⅱ	1	30
	保健医療福祉行政論	2	30
専門科目	公衆衛生看護学概論	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅳ	2	30
	公衆衛生看護活動論Ⅴ	2	30
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	2	30
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	2	30
	公衆衛生看護学実習A	3	135
	公衆衛生看護学実習B	2	90
	合計	27	570

ウ. 保健師国家試験受験資格取得科目の履修希望手続きと審査・選考

- ① 保健師国家試験受験資格取得科目の履修については、入学時のガイダンスで説明を行う。
- ② 審査・選考の手続きについては、2年次の後期に説明を行う。
- ③ 履修希望の有無については、2年次の1月に調査を実施する。
- ④ 保健師国家試験受験資格取得科目の履修を希望する学生は、希望学生を対象とした説明会に参加したうえで、保健師国家試験受験資格取得科目履修願を看護学部事務室に提出する。説明会実施日と履修願提出期間は掲示で知らせる。

⑤ 保健師国家試験受験資格取得科目の履修届を提出した学生に対して、次の方法で審査し許可者を選考する。

(選考の時期)

3年次前期までに審査・選考を行う。

(選考方法)

1、2年次開講科目の履修状況とその成績の審査、および面接とする。

(選考基準)

- ・ 2年次終了までに、教養教育科目の卒業要件である単位をすべて修得していること。
- ・ 1、2年次までの学習において、学習への意欲と成績の向上が認められること。
- ・ 保健師国家試験受験資格取得科目の履修に対する意欲や向上心が認められること。

(審査・選考の結果)

保健師国家試験受験資格取得科目履修の許可者は掲示で発表する。

保健師国家試験受験資格取得科目履修願

年 月 日

名古屋市立大学看護学部長 様

学籍番号

氏 名

印

私は、保健師国家試験受験資格取得科目の履修を希望します。

(11) 授業出席にあたって

- ① 授業中は携帯電話の電源を切る。
- ② 授業中の私語は慎む。
- ③ 授業途中での入室や退室は避ける。
- ④ 担当教員が授業の進行に支障をきたすと判断した場合は、退室を命ずることがある。
- ⑤ 質問等に関してはオフィスアワーを利用する。

オフィスアワーとは

- ・本学の専任教員が、研究室等において学生からの授業についての質問や学習等についての相談に応じる時間をいう。
- ・原則として、同じ曜日の同じ時間帯に設定され、シラバスや本学部ホームページに掲載されている。所定の時間帯に不在となる場合等は、掲示等によって知らせる。

(12) その他

- ① 保健師免許を有することを基礎資格として養護教諭二種免許状の取得を希望する学生は、以下の科目を修得すること。

(免許取得手続きについては、保健師免許発行後に教育委員会への申請が必要。)

教育職員免許法施行規則に定める科目	必要単位	本学で対応する科目	本学単位
日本国憲法	2単位	日本国憲法（教養教育科目・選択）	2単位
体育※	2単位	健康・スポーツ科学（教養教育科目・必修）	1単位
		健康・スポーツ実技（教養教育科目・選択）	1単位
外国語コミュニケーション	2単位	授業内容に「コミュニケーション」が含まれる外国語科目（教養教育科目・選択） どの科目が該当するかはシラバスを確認すること	2単位
情報機器の操作	2単位	情報処理基礎（教養教育科目・必修）	2単位

※令和4年度以前の必修科目「健康・スポーツ科学」は2単位だが、実技を含まないので、選択科目である「健康・スポーツ実技」の履修も必要。3年生の夏季休業期間に集中講義で履修可能である。

- ② 教務に関する連絡はすべて掲示あるいは学生ポータルサイトによって知らせる。

3 「コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム」の履修制度について

ア. 趣旨

本学の医学部・薬学部・看護学部ではエイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するため「コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム」を開設している。本プログラムの履修科目に指定された科目の必要単位数を修得した学生には、修了証を交付する。

イ. 対象者

この制度は、平成 25 年度以降に本学へ入学した学生を対象とする。

ウ. 指定科目（別表 1）

履修科目は別表 1 のとおりとする。各科目では、医療人としての基礎的能力および多職種協働によるチーム医療の知識・技術・態度の修得、超高齢社会の課題と地域における保健・医療・福祉サービス、チーム医療の基礎と実際、地域包括ケアの実際等を学習する。また、実際に高齢者に関わり、その人らしく暮らすための方法や保健医療福祉サービスの活用方法、高齢者のニーズに応じた支援方法などを議論する。

エ. 修了に必要な単位

指定科目一覧に示す科目をすべて履修すること。

オ. 修了証交付時期

申請に基づき、必要単位を満たした学生に卒業時交付する。

カ. 履修手続

履修にあたっては、各自 Web 履修システムにより、各学期の始めに履修登録手続きを行うこと。

指定科目一覧

別表1（令和4年度以降入学生）

科 目	単 位	配当年次	令和5年度 開 講 状 況	開設学部
※医薬看連携地域参加型学習 （インタープロフェッショナル・ヘルスケア論）	2	1	○	教養教育
コミュニティ・ヘルスケアⅠ	2	2	○	看護学部 （選択科目）
コミュニティ・ヘルスケアⅡ	2	4	—	

※医薬看連携地域参加型学習：教養教育科目

医薬看連携地域参加型学習を履修することにより、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの指定科目（インタープロフェッショナル・ヘルスケア論）として読み替える。

別表1（令和3年度以前入学生）

科 目	単 位	配当年次	令和5年度 開 講 状 況	開設学部
※医薬看連携地域参加型学習 （インタープロフェッショナル・ヘルスケア論）	2	1	—	教養教育
コミュニティ・ヘルスケア基礎	2	2	—	看護学部 （自由科目）
コミュニティ・ヘルスケア応用	2	3	○	
コミュニティ・ヘルスケア発展	2	4	○	
コミュニティ・ヘルスケア実践	2	4	○	

※医薬看連携地域参加型学習：教養教育科目

医薬看連携地域参加型学習を履修することにより、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの指定科目（インタープロフェッショナル・ヘルスケア論）として読み替える。

4 暴風警報・暴風雪警報発令時における授業・試験について

名古屋地方気象台から、「愛知県西部」又は「尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部のいずれかの区域」又は「名古屋市」に暴風警報・暴風雪警報が発令された場合の授業・試験についての取り扱いは、以下のとおりとする。

ただし、所属学部、又は担当教員から特別な指示がある場合は、この限りではない。電話での問い合わせは受け付けないので、ラジオ・テレビ等の報道で確認のうえ、各自判断すること。

(1) 授業・試験の開始前に発令された場合

解除の時刻	区分	休講または試験が中止となる時限	授業または試験を行う時限
午前7時まで		なし（開講する）	通常どおり
午前7時から午前10時まで		第1時限及び第2時限	第3時限以降
午前10時すぎ		当日実施予定の全ての時限	実施しない

(2) 授業・試験の開始後に発令された場合

学部 (教養教育含む)	原則として授業は休講とし、試験は中止とするが、状況によっては続行することもある。 なお、中止となった試験については、各学部の指示に従うこと。
----------------	---

(3) 居住地または通学経路内に発令された場合

居住地又は通学経路内に発令されている間は、登校しないこと。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも発令されていなければ、授業・試験は通常どおり行う。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに各学部事務室または山の畑事務室に提出するなど所定の手続きを行うこと。欠席した日の気象状況については、日本気象協会ホームページの警報発表履歴で確認する。

(4) その他の気象警報が発令された場合

暴風警報・暴風雪警報に限らず、その他の気象警報（大雨警報、大雪警報等）発令時において、学長、副学長等が必要と判断した場合は、授業・試験を中止することがある。その場合の学生への周知は、大学ホームページやポータルサイトより行う。

5 公共交通機関運休時の対応について

(1) 大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合

通学経路に係る公共交通機関が運休している場合、無理な登校はしないこと。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも暴風警報・暴風雪警報が発令されていない場合は、授業・試験は通常どおり行う。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに各学部事務室または山の畑事務室に提出するなど所定の手続きを行うこと。その場合、運休の事実を証明する書類が必要となる。

(2) 交通ストの場合

名古屋市営交通、東海旅客鉄道（JR東海）、名古屋鉄道（名鉄）の3社のうち2社以上がストライキを行った場合の授業・試験の取り扱いは、23頁「(1) 授業・試験の開始前に発令された場合」で掲げた表に準ずるものとする。

(3) その他の事由による公共交通機関の運休の場合

事故等により、公共交通機関が運休し、授業・試験に出席できなかった場合は、(1)に準じて各学部事務室または山の畑事務室にて、所定の手続きを行うこと。

6 「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合における授業・試験等について

授業等の実施中に「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合は、大学からの指示に従って行動すること。また、登校前や登校途中の場合は、安全な場所で待機するとともに各自で情報収集に努め、安全を確保するように。

〔参考〕南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>

「南海トラフ地震に関する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

情報の種類	情報の発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	<ul style="list-style-type: none">・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではないと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	<ul style="list-style-type: none">・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行っていません。

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。

〔参考〕地震発生時の行動について

名古屋市立大学滝子キャンパス「ポケット防災」（滝子キャンパス自主防災委員会作成）

※ ホームページなどで常に最新の情報を確認すること。

7 指導教員

本学では、学生生活が有意義で円滑なものとなるように、指導教員を置いている。指導教員はクラス、グループまたは個人に対し、履修や学生生活上の諸問題に関して助言・指導する。なお、専門教育科目の履修に関しては看護学部事務室、健康上の問題に関しては滝子キャンパスの2号館（教養教育棟）1階にある保健管理センターが個人的な相談に応じている（平日9時～17時）。これらを積極的に活用するとともに、問題の内容に応じて個々の教員の助言を求めることが望ましい。

令和5年（2023年）度における指導教員は下記の通りである。

1年生

学籍番号	指導教員	
236001～236015	窪田 泰江	藪田
236016～236030		渡邊
236031～236045	薊 隆文	富成
236046～236060		中嶋
236061～236075	山口 琴美	高崎
236076～236090		澤田(美)
236091～236120	鏡 裕行	迫間／今泉

2年生

学籍番号	指導教員	
226001～226020 2060〇〇番号の学生	窪田 泰江	森本
226021～226040 2160〇〇番号の学生	薊 隆文	徳元
226041～226060	山口 琴美	城川
226061～226080	鏡 裕行	中井(久)／雑子

3年生 看護研究Ⅰの担当教員が指導教員となる。配属が決まるまでは表のとおりである。

学籍番号	指導教員
216001～216020	門間 晶子
216021～216040	益田 美津美
216041～216061	安岡 砂織
216062～216082 1960〇〇番号の学生	横井 靖子

4年生 看護研究Ⅱの担当教員が指導教員となる。

8 専門教育科目担当教員一覧

(1) 専任教員 (五十音順)

氏名	職名	担当授業科目	
		新課程カリキュラム	旧課程カリキュラム
明石 恵子	教授	成人看護学概論、コミュニティ・ヘルスケア I	クリティカルケア看護援助論、臨地実習 D (クリティカルケア系)、看護演習、健康支援看護学Ⅲ、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、コミュニティ・ヘルスケア応用、コミュニティ・ヘルスケア発展、コミュニティ・ヘルスケア実践
秋山 明子	教授	—	地域療養生活看護援助論、臨地実習 H (地域療養生活・リハビリ系)、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)
秋山 直美	准教授	基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ	看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、看護技術リファレンス
薊 隆文	教授	人体の構造と機能Ⅱ、疾病・治療論Ⅰ、疾病・治療論Ⅱ、疾病・治療論Ⅲ、疾病・治療論Ⅵ	—
安東 由佳子	教授	看護学概論Ⅱ、セルフマネジメント看護論	リハビリテーション看護論、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)
井上 高博	准教授	コミュニティ・ヘルスケア I	地域療養生活看護援助論、臨地実習 H (地域療養生活・リハビリ系)、看護提供システム論Ⅱ、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、コミュニティ・ヘルスケア応用、コミュニティ・ヘルスケア発展、コミュニティ・ヘルスケア実践
今泉 源	助教	精神看護援助論	臨地実習 G (精神療養生活系)、看護演習、看護技術リファレンス、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)
遠藤 晋作	准教授	小児看護論	生涯発達看護援助論Ⅱ、臨地実習 B (生涯発達小児系)、クリティカルケア看護援助論、セルフマネジメント看護援助論、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、健康支援看護学Ⅱ
大橋 麗子	准教授	小児看護論	生涯発達看護援助論Ⅱ、臨地実習 B (生涯発達小児系)、セルフマネジメント看護援助論、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、健康支援看護学Ⅱ
尾崎 伊都子	准教授	健康教育方法論	看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅲ、公衆衛生看護活動論Ⅳ、公衆衛生看護活動論Ⅴ、公衆衛生看護管理論Ⅱ、公衆衛生看護学実習 A、公衆衛生看護学実習 B

氏名	職名	担当授業科目	
		新課程カリキュラム	旧課程カリキュラム
小田嶋 裕輝	准教授	セルフマネジメント看護援助論、緩和ケア看護論	セルフマネジメント看護援助論、リハビリテーション看護論、緩和ケア看護論、臨地実習 E (セルフマネジメント系)、臨地実習 F (緩和・終末期系)、看護演習、看護技術リファレンス、健康支援看護学Ⅳ、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)
鏡 裕行	教授	—	看護研究Ⅰ
香月 富士日	教授	疾病・治療論Ⅰ、精神看護学概論	リハビリテーション看護論、臨地実習 G (精神療養生活系)、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、ケアシステム看護学Ⅲ
門間 晶子	教授	公衆衛生看護学概論	保健医療福祉行政論、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、公衆衛生看護活動論Ⅲ、公衆衛生看護活動論Ⅳ、公衆衛生看護活動論Ⅴ、公衆衛生看護管理論Ⅰ、公衆衛生看護管理論Ⅱ、公衆衛生看護学実習 A、公衆衛生看護学実習 B
金子 典代	教授	ヘルスプロモーション、疫学・保健統計学Ⅰ、疫学・保健統計学Ⅱ、コミュニティ・ヘルスケアⅠ	保健統計学Ⅱ、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、ケアシステム看護学Ⅳ、コミュニティ・ヘルスケア応用、コミュニティ・ヘルスケア発展、コミュニティ・ヘルスケア実践
桐山 啓一郎	准教授	精神看護論、精神看護援助論	クリティカルケア看護援助論、臨地実習 G (精神療養生活系)、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習) ケアシステム看護学Ⅲ
窪田 泰江	教授	人体の構造と機能Ⅰ、疾病・治療論Ⅰ、疾病・治療論Ⅳ	—
江 啓発	准教授	疫学・保健統計学Ⅰ、疫学・保健統計学Ⅱ	保健統計学Ⅱ、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、ケアシステム看護学Ⅳ
小山 晶子	准教授	高齢者看護論、高齢者看護援助論	臨地実習 C (生涯発達老年系)、クリティカルケア看護援助論、リハビリテーション看護論、地域療養生活看護援助論、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、健康支援看護学Ⅴ
雑子 侑里	助教	健康教育方法論	看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、公衆衛生看護管理論Ⅱ
澤田 華世	講師	精神看護論、精神看護援助論	臨地実習 G (精神療養生活系)、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習 J (看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、ケアシステム看護学Ⅲ

氏名	職名	担当授業科目	
		新課程カリキュラム	旧課程カリキュラム
澤田 美和	助教	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ	看護技術リファレンス
城川 絵理子	助教	—	地域療養生活看護援助論、臨地実習H(地域療養生活・リハビリ系)、看護技術リファレンス、臨地実習J(看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)
高崎 詩彩	助教	—	臨地実習F(緩和・終末期系)、看護技術リファレンス
田中 泉香	講師	母性看護論	生涯発達看護援助論Ⅰ、臨地実習A(生涯発達母性系)、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習J(看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、健康支援看護学Ⅰ
土井 愛美	助教	—	—
徳元 宏美	助手	基礎看護技術Ⅰ、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ	看護技術リファレンス、臨地実習J(看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)
富成 麻帆	助教	セルフマネジメント看護論、セルフマネジメント看護援助論	セルフマネジメント看護援助論、看護演習、臨地実習E(セルフマネジメント系)、臨地実習F(緩和・終末期系)、看護技術リファレンス
中井 久美子	助教	—	看護研究Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護活動論Ⅲ、公衆衛生看護活動論Ⅳ、公衆衛生看護活動論Ⅴ、公衆衛生看護管理論Ⅰ、公衆衛生看護学実習A、公衆衛生看護学実習B
中井 智子	講師	成人看護学概論	クリティカルケア看護援助論、臨地実習D(クリティカルケア系)、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習J(看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、健康支援看護学Ⅲ
中嶋 未佳	助手	看護学概論Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ	看護提供システム論Ⅰ、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅰ(看護学統合実習Ⅰ：看護管理実習)、臨地実習J(看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、ケアシステム看護学Ⅱ
迫間 りえ	助教	—	看護演習、看護技術リファレンス
樋口 倫代	教授	疾病・治療論Ⅵ、グローバルヘルス、疫学・保健統計学Ⅱ	保健統計学Ⅱ、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習J(看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習)、ケアシステム看護学Ⅳ

氏名	職名	担当授業科目	
		新課程カリキュラム	旧課程カリキュラム
平田 弘美	教授	高齢者看護学概論、高齢者看護論、高齢者看護援助論	臨地実習 C (生涯発達老年系)、地域療養生活看護援助論、看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)、健康支援看護学 V
益田 美津美	准教授	緩和ケア看護論	リハビリテーション看護論、緩和ケア看護論、臨地実習 F (緩和・終末期系)、看護技術リファレンス、看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)
宮内 義明	准教授	基礎看護技術 I、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習 I、基礎看護学実習 II	看護技術リファレンス、看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)、ケアシステム看護学 I
縦野 香苗	教授	基礎看護技術 I、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習 I、基礎看護学実習 II	看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)
森本 浩史	助教	—	クリティカルケア看護援助論、リハビリテーション看護論、臨地実習 D (クリティカルケア系)、臨地実習 F (緩和・終末期系)、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究 II、健康支援看護学 III
矢野 久子	教授	疾病・治療論 VI、看護学概論 I	看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)
安岡 砂織	准教授	疾病・治療論 VI、基礎看護技術 II	看護技術リファレンス、看護提供システム論 I、看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 I (看護学統合実習 I : 看護管理実習)、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)、ケアシステム看護学 II
藪田 綾	助教	—	生涯発達看護援助論 I、臨地実習 A (生涯発達母性系)、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)
山口 琴美	准教授	基礎看護技術 I、コミュニティ・ヘルスケア I、基礎看護学実習 I、基礎看護学実習 II	看護技術リファレンス、コミュニティ・ヘルスケア応用、コミュニティ・ヘルスケア発展、コミュニティ・ヘルスケア実践
山邊 素子	教授	小児看護学概論	看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)、健康支援看護学 II
横井 靖子	講師	看護学概論 II、セルフマネジメント看護論、セルフマネジメント看護援助論	セルフマネジメント看護援助論、リハビリテーション看護論、看護技術リファレンス、臨地実習 E (セルフマネジメント系)、臨地実習 F (緩和・終末期系)、看護演習、看護研究 I、看護研究 II、臨地実習 J (看護学統合実習 II : 看護統合実習)、健康支援看護学 IV

氏 名	職 名	担 当 授 業 科 目	
		新課程カリキュラム	旧課程カリキュラム
吉 川 寛 美	講 師	看護学概論Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ	看護技術リファレンス、看護提供システム論Ⅰ、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅰ（看護学統合実習Ⅰ：看護管理実習）、臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）、ケアシステム看護学Ⅱ
脇 本 寛 子	教 授	母性看護学概論	臨地実習 A（生涯発達母性系）、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）
渡 邊 梨 央	助 教	小児看護論	生涯発達看護援助論Ⅱ、臨地実習 B（生涯発達小児系）、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）、健康支援看護学Ⅱ
未 定 (性・生殖看護学)	未 定 (准教授/講師)	—	生涯発達看護援助論Ⅰ、臨地実習 A（生涯発達母性系）、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）
未 定 (性・生殖看護学)	未 定 (助教)	—	生涯発達看護援助論Ⅰ、看護演習、臨地実習 A（生涯発達母性系）、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）
未 定 (クリティカルケア看護学)	未 定 (教授)	クリティカルケア看護論	—
未 定 (高齢者看護学)	准 教 授	高齢者看護論、高齢者看護援助論	臨地実習 C（生涯発達老年系）、看護演習、看護技術リファレンス、看護研究Ⅰ、看護研究Ⅱ、臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）、健康支援看護学Ⅴ
未 定 (看護研究推進センター)	未 定 (教授)	—	—

(2) 非常勤講師 (五十音順)
(新課程カリキュラム科目担当)

氏 名	担 当 授 業 科 目	所 属 等
アホロニア マトリック チ ガイチ	臨床国際コミュニケーション	本務校なし
エストレルヤド・エマニ ユエル・リポーオヌ	臨床国際コミュニケーション	本務校なし
伊 藤 孝 一	疾病・治療論Ⅳ	名古屋市立大学東部医療センター
岩 尾 岳 洋	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院薬学研究科
江 崎 伸 一	疾病・治療論Ⅳ	名古屋市立大学大学院医学研究科
大喜多 賢 治	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
大 澤 匡 弘	疾病・治療論Ⅱ	帝京大学薬学研究科
奥 山 徹	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学西部医療センター
片 野 広 之	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
神 谷 武	疾病・治療論Ⅳ	名古屋市立大学大学院医学研究科
河 口 尚 子	医療社会学	本務校なし
川 口 洋 平	疾病・治療論Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科
川 嶋 将 司	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
黒 柳 元	疾病・治療論Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科
榊 原 諒 子	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学病院薬剤部
真 川 明 将	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院薬学研究科
鈴 木 一 史	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院医学研究科
鈴 木 伸 幸	疾病・治療論Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科
高 橋 広 城	疾病・治療論Ⅳ	名古屋市立大学大学院医学研究科
竹 本 将 士	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学病院薬剤部
田 尻 直 輝	人体の構造と機能Ⅰ	名古屋市立大学大学院医学研究科
谷 川 元 紀	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
富 田 夏 夫	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院医学研究科
中 口 智 博	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
中 村 元 樹	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
仲 森 隆 子	臨床栄養学	本務校なし
西 川 隆太郎	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
坂 下 真 大	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院薬学研究科
長谷川 明 美	臨床発達心理学	本務校なし
河 命 守	疾病・治療論Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科
早 坂 典 生	疫学・保健統計学Ⅰ	NPO 法人りょうちゃんず
飛 田 秀 樹	人体の構造と機能Ⅰ	名古屋市立大学大学院医学研究科

氏名	担当授業科目	所属等
日比陽子	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院医学研究科 名古屋市立大学病院薬剤部
藤岡哲平	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
堀田祐志	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院医学研究科
堀田康弘	疾病・治療論Ⅱ	名古屋市立大学大学院医学研究科
間瀬光人	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
松尾洋一	疾病・治療論Ⅳ	名古屋市立大学大学院医学研究科
水野将行	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
村上寿来	社会保障制度論	名古屋学院大学
山田敦朗	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
山田悠史	臨床栄養学	名古屋市立大学病院栄養管理係
山中智康	疾病・治療論Ⅴ	名古屋市立大学大学院医学研究科
吉野亜沙子	疫学・保健統計学Ⅰ	本務校なし
李政樹	疾病・治療論Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科

(旧課程カリキュラム科目担当)

氏名	担当授業科目	所属等
荒川緑	看護提供システム論Ⅱ	名古屋市守山区保健福祉センター
幾田純代	公衆衛生看護管理論Ⅰ	愛知県看護協会
伊藤麻子	緩和ケア看護論	名古屋市立大学病院看護部
井上真紀	臨床国際コミュニケーションⅡ	本務校なし
岡本理恵	公衆衛生看護管理論Ⅰ 保健医療福祉行政論	名古屋市健康福祉局健康部健康増進課
鬼塚真実	緩和ケア看護論	名古屋市立大学医学・病院管理部医事課
加藤直美	看護提供システム論Ⅰ	名古屋市立大学病院看護部
川谷陽子	看護提供システム論Ⅱ	愛知医科大学病院
笹野寛	健康支援看護学Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科
佐野一雄	保健医療福祉行政論	本務校なし
佐橋朋代	緩和ケア看護論	名古屋市立大学病院看護部
竹村まどか	保健統計学Ⅱ	本務校なし
戸田輝子	保健医療福祉行政論	愛知県清須保健所
服部友紀	健康支援看護学Ⅲ	名古屋市立大学大学院医学研究科
古川陽介	緩和ケア看護論	名古屋市立大学病院看護部
松浦清恵	公衆衛生看護活動論Ⅳ	トヨタ自動車(株)安全健康推進部
村田佐知子	看護提供システム論Ⅰ	名古屋市立大学病院看護部
山口孝子	公衆衛生看護活動論Ⅲ	大府市教育委員会学校教育課
吉野亜沙子	疫学・保健統計学Ⅱ	本務校なし

9 学生生活上の案内

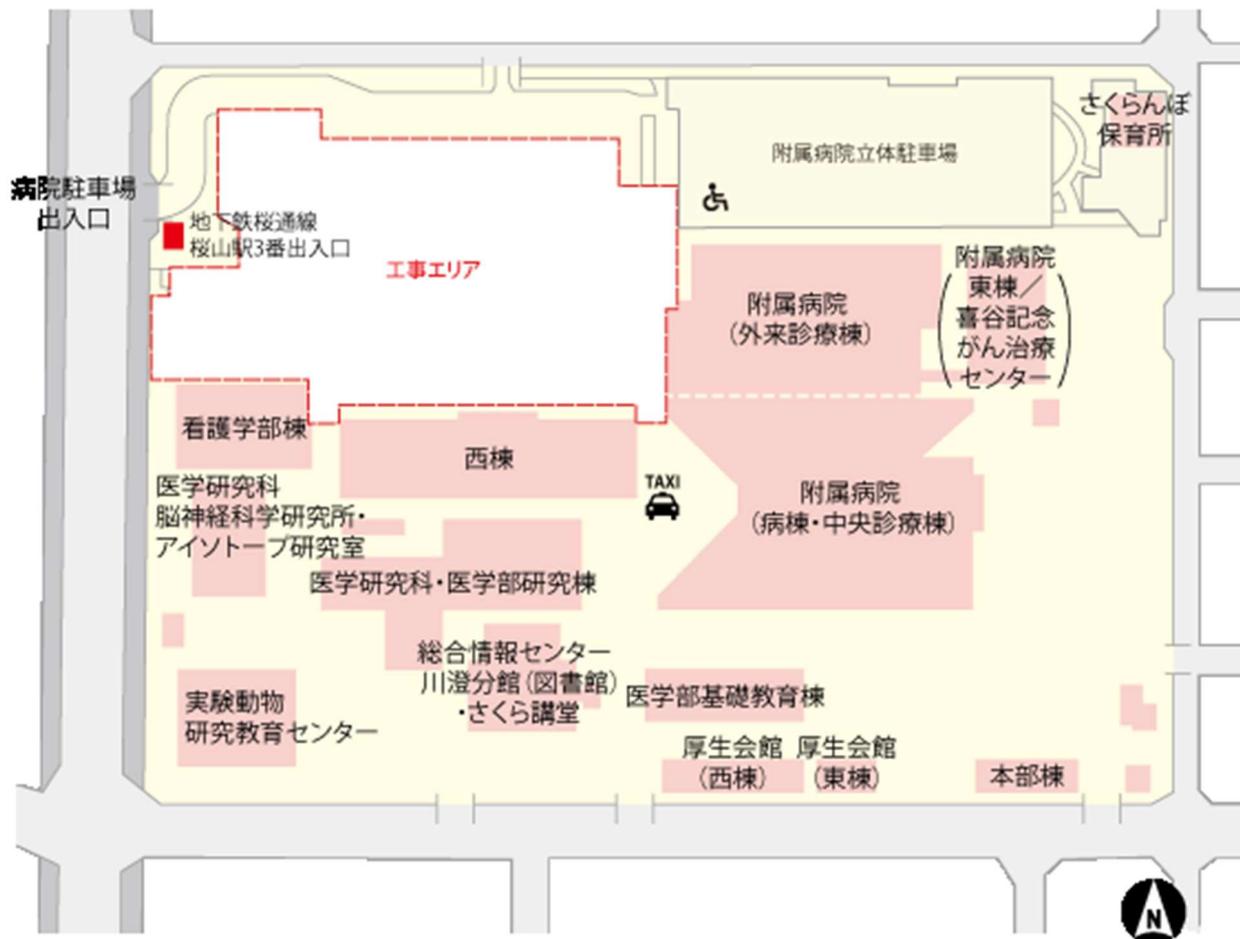
期末試験の日程、結果ならびに授業の休講、教室変更、時限変更等専門教育科目の履修に関する事項は、看護学部事務室前の掲示板あるいは学生ポータルサイトにおいて案内する。電話等での問い合わせには応じかねるので注意すること。

また、看護学部や桜山キャンパス内の事柄についても、この掲示板あるいは学生ポータルサイトを用いて連絡する。連絡事項によっては、期限が設けられている場合がある。登下校時には必ず掲示内容を確認し、手続きや申請の漏れがないように注意すること。

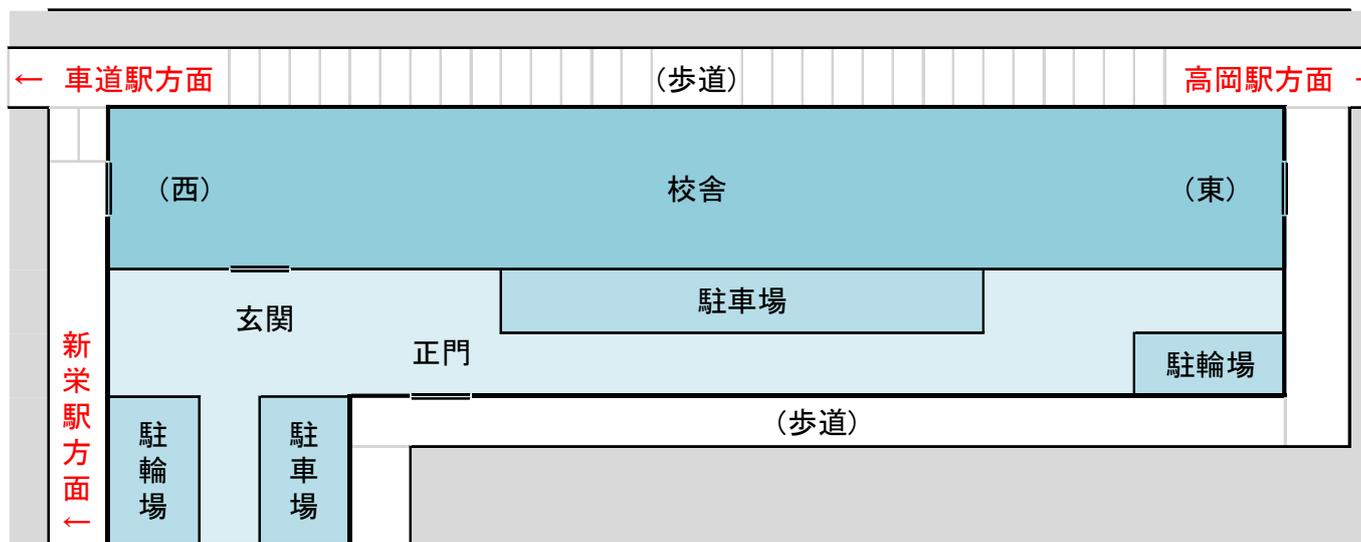
掲示あるいは学生ポータルサイトを見なかったことによって学生に不利益が生じても、学生自身の責任となる。

10 キャンパス建物配置図

○桜山キャンパス

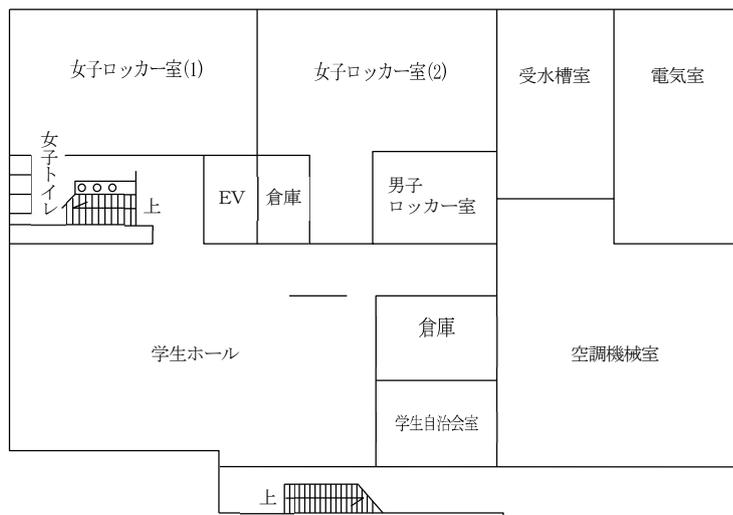


○葵校舎

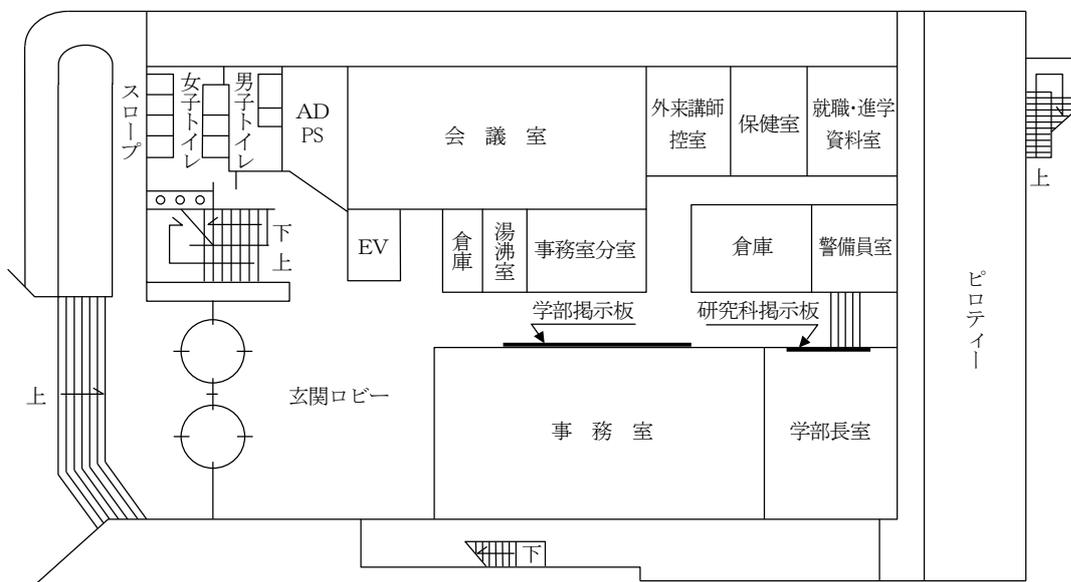


11 看護学部棟各階配置図

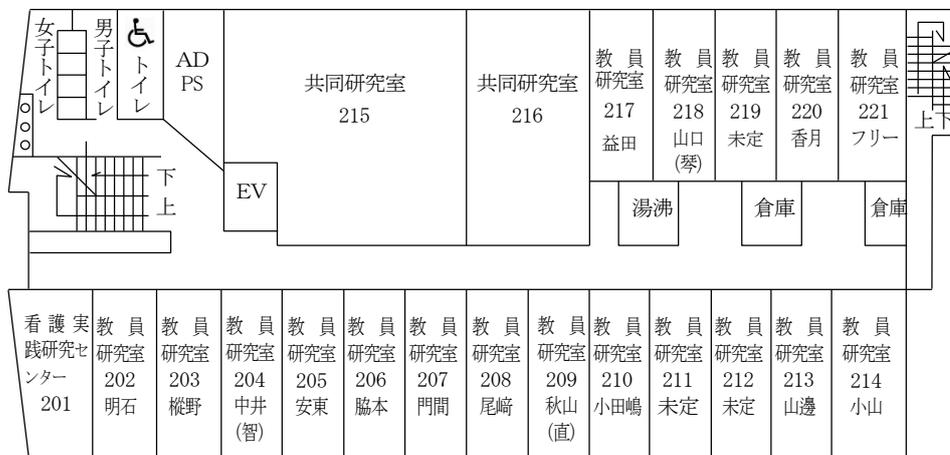
地階



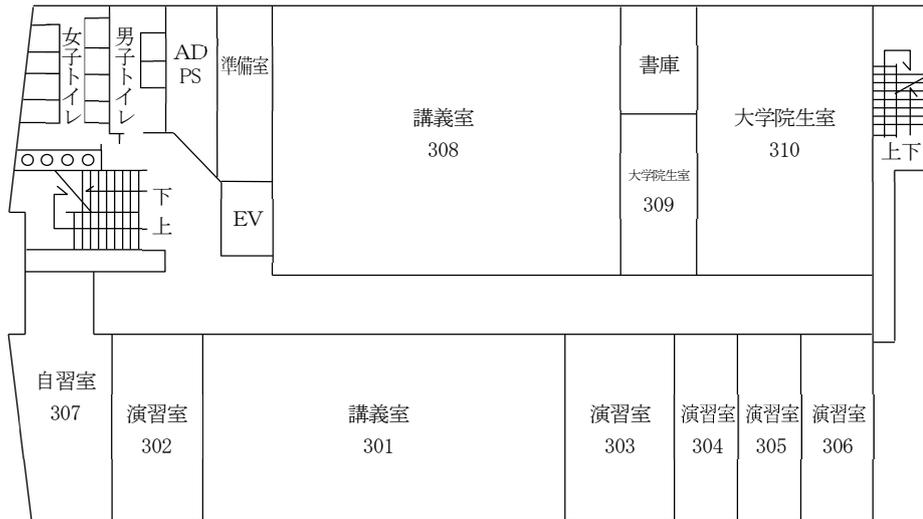
1階



2階



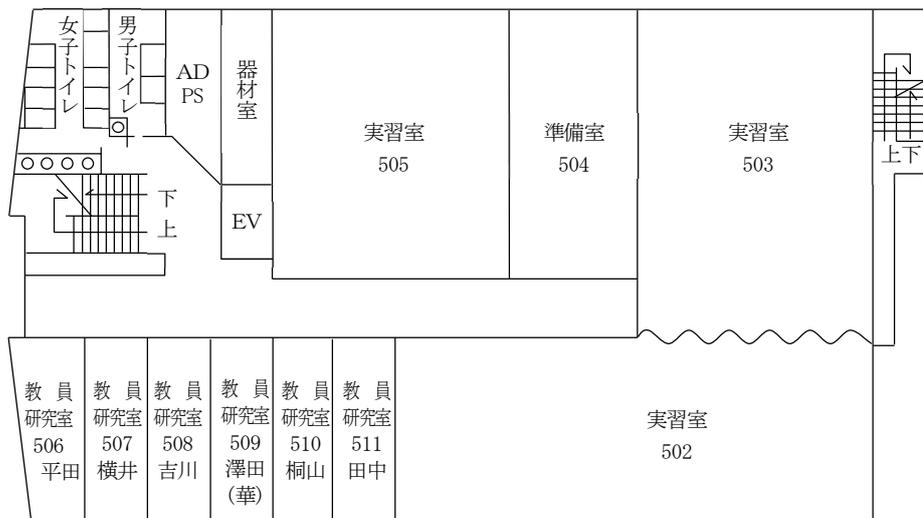
3階



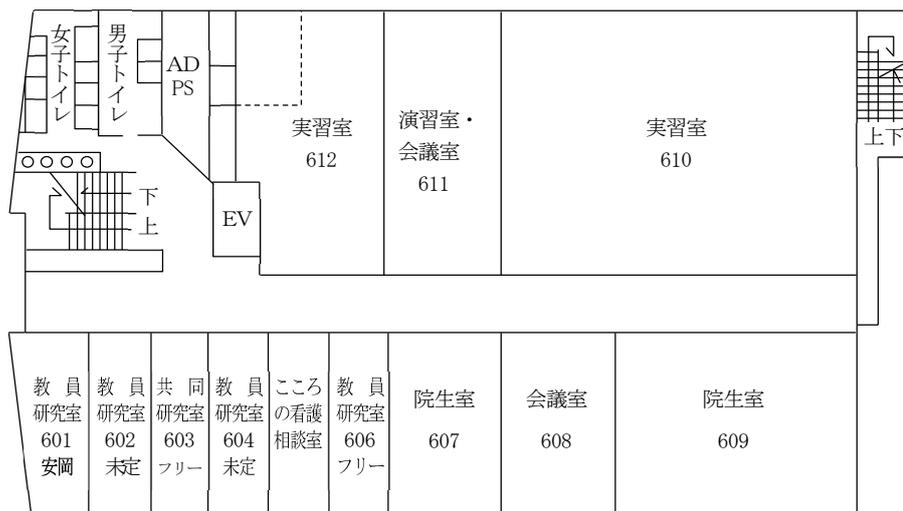
4階



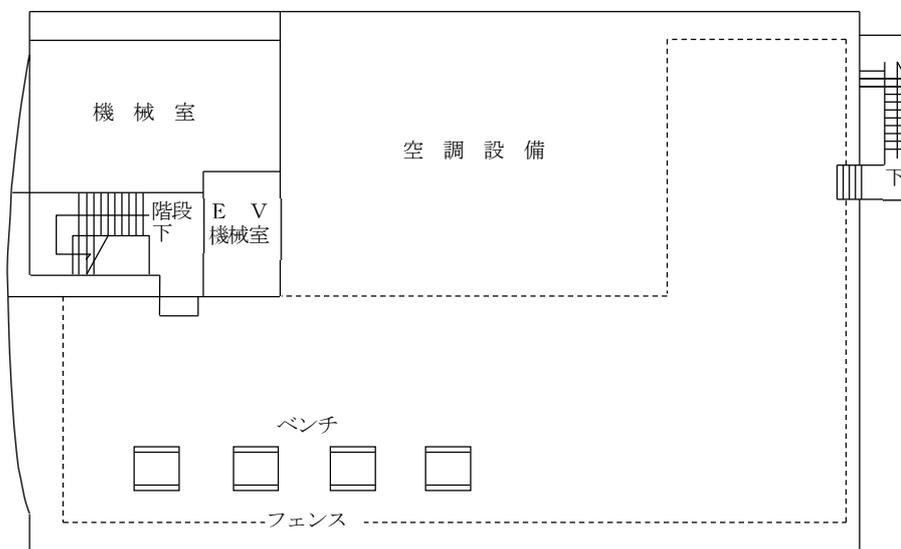
5階



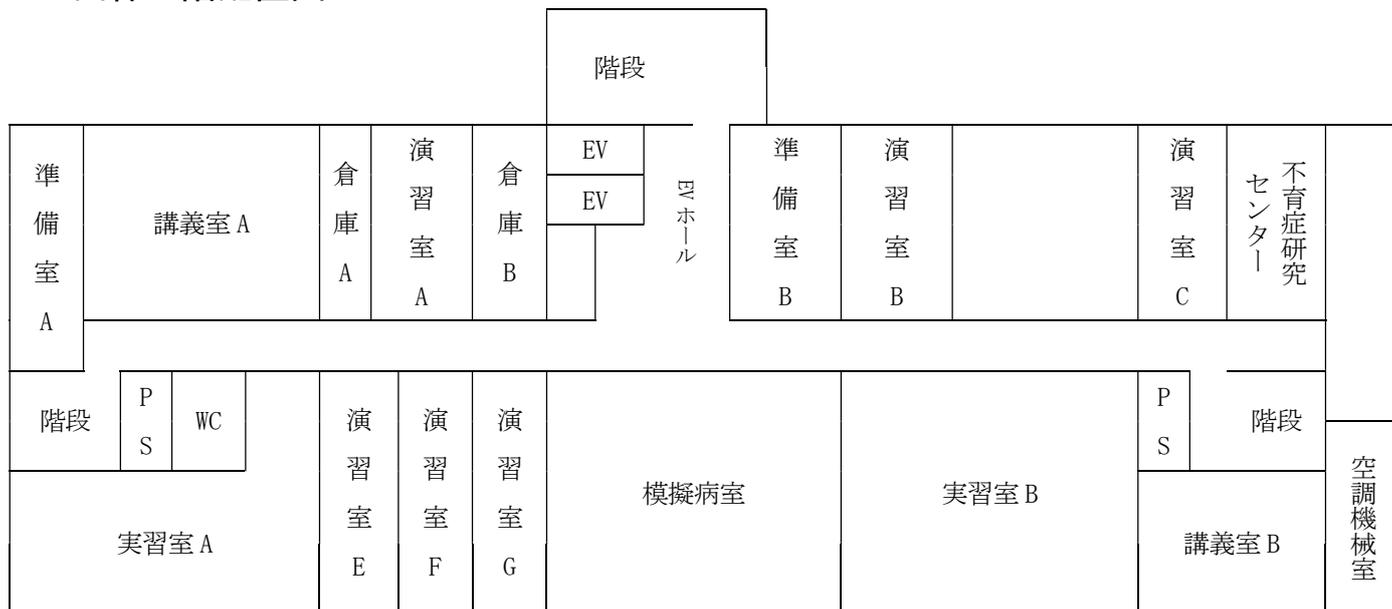
6階



7階(屋上)

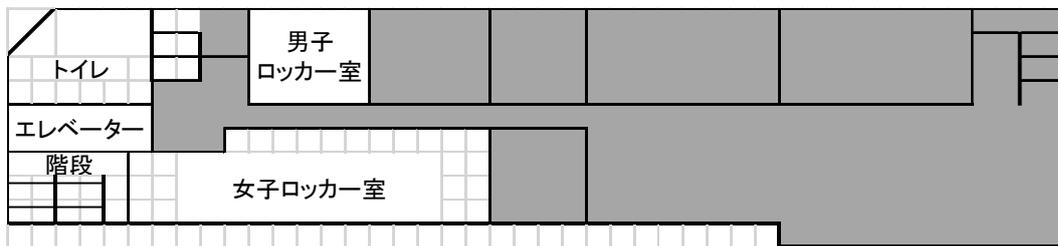


12 西棟 2階配置図

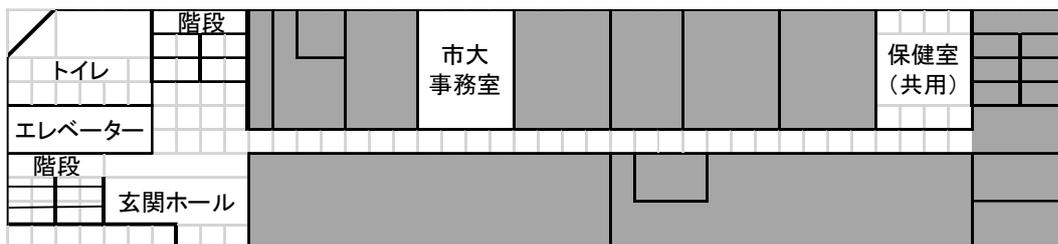


13 葵校舎各階配置図（名市大看護学部使用エリア）

地階



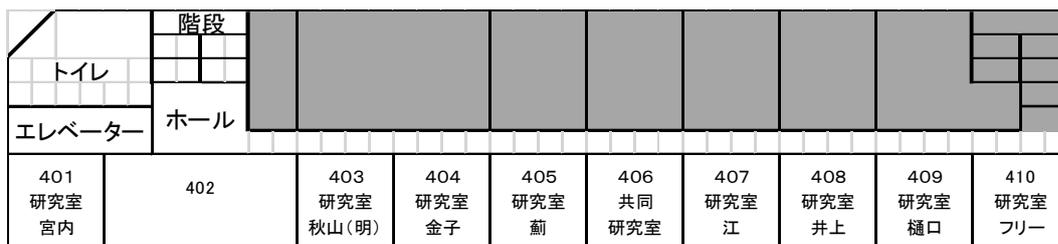
1階



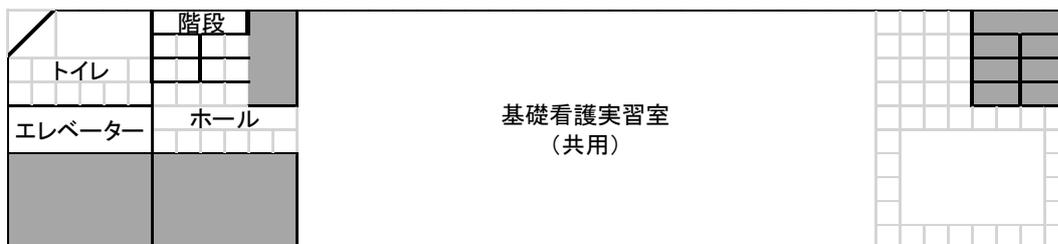
2階



4階



6階



14 名古屋市立大学看護学部履修規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年公立大学法人名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、看護学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位数及び履修方法等（以下「履修方法等」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2章 教養教育科目

(授業科目及び単位数)

第2条 授業科目、配当年次、単位数及び必修・選択・自由の区分は、別表1のとおりとする。

(単位の計算の基準)

第3条 授業科目は、45時間の学修内容をもって1単位とし、授業の方法に応じて次の各号に定める基準により単位数を計算する。

- (1) 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習 15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習及び実技 30時間の授業をもって1単位とする。

第4条 教養教育科目における修得必要単位数は、別表2のとおりとする。

(履修の届出)

第5条 学生は、年度の始めにおいて、前期及び後期に履修しようとする授業科目について、指定された期間内に、所定の手続きにより届け出なければならない。

2 前項の規定により届出された後期の授業科目については、後期の始めの指定された期間内に、所定の手続きにより変更（新規の届出を含む。）することができる。

(履修の取消)

第6条 学生は、指定された期間内に所定の手続きにより履修の取消しをすることができる。

(履修方法)

第7条 必修科目は、配当年次において必ず履修しなければならない。

- 2 授業時間の重なる授業科目（専門教育科目の授業科目を含む。）については、重複して履修することはできない。
- 3 学生は、第5条の規定により届け出た授業科目以外の授業科目を履修することはできない。
- 4 既に単位を修得した授業科目については、再履修することはできない。
- 5 第1年次においては、第2年次に配当された授業科目を履修することはできない。
- 6 授業科目によっては、履修者数及び履修資格を定めることがある。
- 7 授業科目のうち、履修するクラスを指定する科目（以下「指定科目」という。）は、原則として、指定されたクラス以外で履修することはできない。
- 8 指定科目を再履修するため、同一授業時間の別の指定科目が履修できない場合は、指定されたクラス以外で履修することができる。

(試験)

第8条 試験については、名古屋市立大学試験及び成績に関する規程（以下、「試験及び成績に関する規程」という。）

第2条に定める。

(追試験)

第9条 追試験については、試験及び成績に関する規程第4条に定める。

(再試験)

第10条 試験に不合格となった授業科目については、再試験を受けることができる。

- 2 再試験を受けることができる学生は、試験の成績が50点以上の者とし、指定された期間内に再試験受験願を提出し、再試験料を納付しなければならない。

(成績)

第11条 成績及び成績評価については、試験及び成績に関する規程第5条及び第6条のとおりとする。

第12条 不合格又は失格となった授業科目については、再履修しなければ受験資格を与えない。

- 2 再履修しようとする学生は、事前に担当教員の許可を受けなければならない。
- 3 再履修をする場合、指定科目については原則として前年度所属クラスにおいて履修しなければならない。なお第2年次以降に初めて履修する場合もこれに従う。ただし、授業編成の都合でその授業時間に履修できない場合には、異なる学期又は他のクラスで履修できることがある。

(既修得単位の認定)

第13条 既修得単位の認定は、学則第40条の規定に従い教授会の議を経て行う。

- 2 既修得単位の認定を受けようとする学生は、既修得単位認定申請書を所定の期日までに提出しなければならない。

(学外における学修の認定単位)

第13条の2 学則第40条の2の規定により単位を認定することのできる学修及び単位数は、別表2の2のとおりとする。

- 2 前項に規定する単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に学外における学修に係る単位認定申請書を提出しなければならない。

(単位の取消)

第13条の3 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

第3章 専門教育科目

(授業科目及び単位数)

第14条 授業科目、配当年次、単位数、必修・選択・自由及び授業時間数の区分は、別表3のとおりとする。

(単位の計算の基準)

第15条 授業科目は、45時間の学修内容をもって1単位とし、授業の方法に応じて次の各号に定める基準により単位数を計算する。

- (1) 講義は、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習は、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習は、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

(修得必要単位数)

第16条 専門教育科目における修得必要単位数は、別表4のとおりとする。

(履修の届出)

第17条 学生は、指定された期間内に授業科目の履修を届け出なければならない

- 2 前項の指定された期間経過後は、履修しようとする授業科目の変更又は取消しをすることはできない。

(履修方法及び履修科目の制限)

第18条 必修科目は、配当年次において必ず履修しなければならない。

2 授業時間の重なる授業科目(教養教育科目を含む。)については、重複して履修することはできない。

3 学生は、前条の規定により届け出た授業科目以外の授業科目を履修することはできない。

4 既に単位を修得した授業科目については、再履修することはできない。

5 第1年次においては第2年次以降に配当された授業科目を、第2年次においては第3年次以降に配当された授業科目を、また、第3年次においては第4年次に配当された授業科目を履修することはできない。

6 臨地実習の授業科目は、前年次までに配当された臨地実習の授業科目の単位をすべて修得していなければ、履修することができない。

7 保健師国家試験受験資格を取得するための履修については、別に定める。

(試験)

第19条 試験については、試験及び成績に関する規程第2条に定める。

2 試験及び成績に関する規程第2条第3項の規定にかかわらず、看護学実習にあつては、出席時間数が当該授業科目の全時間数の8割に満たない場合は失格とし、当該授業科目の成績評価を行わない。

(追試験)

第20条 追試験については、試験及び成績に関する規程第4条に定める。

(再試験)

第21条 試験に不合格となった授業科目については、再試験を受けることができる。

2 再試験を受けることができる学生は、担当教員が再度の試験によって単位取得の可能性があると認めた者とし、指定された期間内に再受験願を提出しなければならない。

(成績)

第22条 成績及び成績評価については、試験及び成績に関する規程第5条及び第6条のとおりとする。

(再履修)

第23条 不合格又は失格となった授業科目については、再履修しなければ受験資格を与えない。

2 再履修しようとする学生は、事前に担当教員の許可を受けなければならない。

(単位の取消)

第23条の2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

第4章 進級及び卒業要件等

(原級留置)

第24条 第2年次終了時に、第1年次及び第2年次に配当された専門教育科目の必修科目の単位をすべて修得していなければ進級することができない。

(卒業の認定)

第25条 所定の期間在学し、第4条及び第16条で定める修得すべき単位を修得した学生に対しては、卒業資格を認定する。

第5章 他学部との単位互換

第25条の2 学生は、別に定めるところにより、他学部の授業科目を履修することができる。

(履修の届出)

第25条の3 他学部の授業科目の履修を希望する場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(履修の取消)

第25条の4 他学部の授業科目の履修を取り消す場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(履修方法)

第25条の5 学生は他学部の授業科目を履修する場合には、他学部の履修規定に従い、履修しなければならない。

(単位の認定及び取消)

第25条の6 他学部の授業科目を履修した学生の単位の認定は、当該学部より送付される成績証明書に基づき、本学部が行う。

2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(委任)

第25条の7 単位互換に関し、この規程に定めのない事態が生じた場合には、その対処の方法について、教授会の議を経て、学部長が決定する。

第5章の2 履修登録単位数の上限

(履修登録単位数の上限)

第25条の8 第1年次において1つの学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める場合を除き、前期にあつては27単位、後期にあつては25単位とする。

第6章 その他

(その他)

第26条 この規程に定めるもののほか、履修方法等に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規程による改正後の名古屋市立大学看護学部履修規程（以下「改正後規程」という。）の規定は、令和5年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、令和4年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、令和4年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会の議を経て学部長が別に定める。

4 令和5年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

5 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が別に定める。

別表1 (令和5年度以降入学者)

区 分			授 業 科 目	授業 形態	配当 年次	単 位 数		
						必修	選択	自由
共 通 科 目	一 般 教 養 科 目	大 学 特 色 科 目	NCUラーニング・コンパス	講義	1	1		
			ヘルシーライフ	講義	1		2	
			キャリアデザインA	講義	1		2	
			キャリアデザインB	講義	1		2	
			SDGsを考える：医療系	講義	1		2	
			SDGsを考える：自然系	講義	1		2	
			SDGsを考える：数理情報系	講義	1		2	
			SDGsを考える：社会科学系	講義	1		2	
			SDGsを考える：人文系	講義	1		2	
			名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	講義	1		2	
			科学館・博物館・美術館から知る名古屋	講義	1		2	
			近世名古屋の歴史	講義	1		2	
			大学生から始めるESD	講義	1		2	
			まちづくり論	講義	1		1	
			キャリアデザイン(実践編)	講義	1		2	
			起業家になる	講義	1		2	
			地域社会で活躍する女性	講義	1		2	
			ワークライフバランスとダイバーシティ	講義	1		2	
			多文化共生と国際貢献	講義	1		2	
			持続可能な社会と私たち	講義	1		2	
	ESDと地域の環境	講義	1		2			
	次世代エネルギーワークショップ	講義	1		2			
	現 代 社 会 の 諸 相	日本国憲法	講義	1		2		
		なぜ憲法が必要なのか	講義	1		2		
		現代社会と法	講義	1		2		
		知的財産権入門	講義	1		2		
		人と法と医療	講義	1		2		
		国民所得はどう決まるか?	講義	1		2		
		ゲーム的状况を科学する	講義	1		2		
		公共政策：健康と暮らしの社会科学	講義	1		2		
		はじめての経営学	講義	1		2		
		企業診断ABC	講義	1		2		
		社会科学のデータ分析	講義	1		2		
社会学A		講義	1		2			
社会学B		講義	1		2			

		社会学C	講義	1		2	
		新聞報道の現場から	講義	1		2	
		人間の行動・心理と建築	講義	1		2	
		平和論	講義	1		2	
		私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	講義	1		2	
		国際政治	講義	1		2	
		比較政治史	講義	1		2	
		シティズンシップ入門	講義	1		2	
		地域力を高めるひとづくり	講義	1		2	
	文化と人間性の探究	日本文化の理解	講義	1		2	
		人類学	講義	1		2	
		日本語コミュニケーション	講義	1		2	
		囲碁に学ぶ	講義	1		2	
		ヨーロッパの文化と歴史	講義	1		2	
		文化に見る歴史	講義	1		2	
		アメリカ史入門	講義	1		2	
		都市と地域構造の地理学	講義	1		2	
		音楽と文化	講義	1		2	
		デザインと情報	講義	1		2	
		人間と表現	講義	1		2	
		自分とみんなで考える哲学	講義	1		2	
		応用倫理学	講義	1		2	
		心理学概論	講義	1		2	
		心理学入門	講義	1		2	
		西洋の教育と哲学	講義	1		2	
		次世代育成と地域の課題	講義	1		2	
		デジタル時代の人文学	講義	1		2	
		世界を理解するための宗教学	講義	1		2	
		日本の宗教の歴史と文化	講義	1		2	
		キー・コンピテンシー	講義	1		2	
		人間と自然	科学史	講義	1		2
	環境と社会・制度・政治・経済		講義	1		2	
	環境科学		講義	1		2	
	植物の多様性と環境		講義	1		2	
	動物とヒトの進化多様性		講義	1		2	
	社会と医学		講義	1		2	
	くずりと社会		講義	1		2	
	都市と自然		講義	1		2	

		健康と生活	講義	1		2	
		行動生態学	講義	1		2	
	自然と数理の探求	教養として知っておきたい様々な病気の実態	講義	1		2	
		創薬と生命	講義	1		2	
		宇宙のなりたち	講義	1		2	
		植物とバイオテクノロジー	講義	1		2	
		エネルギーのサイエンス	講義	1		2	
		バイオサイエンス入門	講義	1		2	
		情報と数理の世界	講義	1		2	
		データサイエンスへの誘い	講義	1		2	
		地球史入門	講義	1		2	
		地域生態学	講義	1		2	
語 学 科 目		英 語	IS: Community	演習	1		1
	IS: Social Justice		演習	1		1	
	IS: Life & Work		演習	1		1	
	IS: Health & Well-being		演習	1		1	
	IS: The Arts		演習	1		1	
	AE: Make a Difference in Your Community		演習	1		2	
	AE: Interact Internationally		演習	1		2	
	AE: Improve Life Skills		演習	1		2	
	AE: Raise Health/ Environmental Awareness		演習	1		2	
	AE: Produce a Movie		演習	1		2	
	CS: Presentation		演習	1		2	
	CS: Grammar and Usage		演習	1		2	
	CS: TOEIC Preparation		演習	1		2	
	CS: Writing		演習	1		2	
	EM: World News		演習	1		2	
	EM: Popular Culture		演習	1		2	
	EM: Reading for Inspiration		演習	1		2	
	EM: Online Articles and Videos		演習	1		2	
	そ の 他 の 言 語		ドイツ語初級1	演習	1		2
		ドイツ語初級2	演習	1		2	
		フランス語初級1	演習	1		2	
		フランス語初級2	演習	1		2	
		中国語初級1	演習	1		2	
		中国語初級2	演習	1		2	
		韓国語初級1	演習	1		2	

		韓国語初級 2	演習	1		2	
		スペイン語初級 1	演習	1		2	
		スペイン語初級 2	演習	1		2	
		日本手話初級 1	演習	1		2	
		日本手話初級 2	演習	1		2	
		ポルトガル語入門	演習	1		2	
		ロシア語入門	演習	1		2	
		イタリア語入門	演習	1		2	
		アラビア語入門	演習	1		2	
		ドイツ語初級会話 1	演習	1			2
		ドイツ語初級会話 2	演習	1			2
		フランス語初級会話 1	演習	1			2
		フランス語初級会話 2	演習	1			2
		中国語初級会話 1	演習	1			2
		中国語初級会話 2	演習	1			2
	情報科目	情報リテラシー	講義 及び 演習	1	1		
		データサイエンス・リテラシー	講義 及び 演習	1	1		
	健康・ スポーツ科目	健康・スポーツ科学	講義	1	2		
		健康・スポーツ実技	実技	1			1
	ボランティア 科目	ボランティア科目 1	実習	1			1
		ボランティア科目 2	実習	1			1
基礎 科目	地域参加 型学習	医薬看連携地域参加型学習	演習 実習	1	2		
		基礎科学	講義	1	2		
	看護基礎	家族社会学	講義	2	2		

注1 本表に掲げる授業科目のほかセミナー及び開放科目を、教授会の議を経て開設し単位を与えることがある。

別表 2 (令和 5 年度以降入学者)

区 分			最低修得必要単位数
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	3 単位
		現代社会の諸相	* 4 単位
		文化と人間性の探究	
		人間と自然	* 4 単位
		自然と数理の探求	
	語学科目	英語	6 単位
		その他の言語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		1 単位
基礎科目	地域参加型 学習	医薬看連携地域参加型 学習	2 単位
		基礎科学	2 単位
	看護基礎	基礎科学	2 単位
		家族社会学	2 単位
教養教育科目合計			30 単位

注 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て 2 単位まで本表*印欄の必要単位数に算入することができる。

別表 2 の 2 (令和 4 年度以降入学者)

検定試験の種類	語学科目 [英語]	
	2 単位	4 単位
実用英語技能検定	準 1 級	1 級
TOEIC / TOEIC L&R	730～799 点	800 点以上
TOEFL (iBT)	77～88 点	89 点以上

注 1 申請はいずれか 1 種類に限る。

注 2 認定の対象科目は「CS : TOEIC Preparation (2 単位)」又は「CS : Grammar and Usage (2 単位)」とし、認定単位は 4 単位を上限とする。

別表3 (令和4年度以降入学者)

区 分	授 業 科 目	授業 形態	配当 年次	単 位 数			授業 時間数
				必修	選択	自由	
専 門 基 礎 科 目	コミュニケーション	臨床国際コミュニケーション	演習	2	1		30
	人体の構造と機能と回復の促進・疾病の成り立ち	人体の構造と機能Ⅰ	講義	1	2		30
		人体の構造と機能Ⅱ	講義	1	2		30
		臨床栄養学	講義	2	2		30
		疾病・治療論Ⅰ	講義	1	2		30
		疾病・治療論Ⅱ	講義	2	3		45
		疾病・治療論Ⅲ	講義	1	2		30
		疾病・治療論Ⅳ	講義	1	2		30
		疾病・治療論Ⅴ	講義	2	2		30
		疾病・治療論Ⅵ	講義	2	2		30
		臨床発達心理学	講義	2	2		30
	健康と社会	社会保障制度論	講義	2	2		30
		医療社会学	講義	2	2		30
		ヘルスプロモーション	講義	2	1		15
		グローバルヘルス	講義	1	1		15
		疫学・保健統計学Ⅰ	講義	1	1		15
		疫学・保健統計学Ⅱ	講義	2	2		30
		保健統計分析	講義	3		2	30
	専 門 科 目	看護の基礎	看護学概論Ⅰ	講義	1	2	
看護学概論Ⅱ			講義	2	1		15
基礎看護技術Ⅰ			演習	1	2		60
フィジカルアセスメント			演習	2	1		30
看護過程論			演習	2	1		30
基礎看護技術Ⅱ			演習	2	2		60
看護演習			実習	3	1		45
生涯発達と看護		母性看護学概論	講義	2	1		15
		母性看護論	講義	2	2		30
		母性看護援助論	演習	3	1		30
		小児看護学概論	講義	2	1		15
		小児看護論	講義	2	2		30
		小児看護援助論	演習	3	1		30
		成人看護学概論	講義	1	1		15
		高齢者看護学概論	講義	1	1		15
		高齢者看護論	講義	2	2		30

		高齢者看護援助論	演習	2	1			30
専 門 科 目	健康問題と看護	セルフマネジメント看護論	講義	2	1			15
		セルフマネジメント看護援助論	演習	2	1			30
		クリティカルケア看護論	講義	2	1			15
		周術期看護援助論	演習	3	1			30
		緩和ケア看護論	講義	2	1			15
		リハビリテーション看護論	講義	3	1			15
		精神看護学概論	講義	1	1			15
		精神看護論	講義	1	2			30
		精神看護援助論	演習	2	1			30
		地域・在宅看護論	講義	3	2			30
		災害看護論	講義	3	1			15
		公衆衛生看護学概論	講義	2	2			30
		健康教育方法論	講義	2	2			30
		看護の統合	看護提供システム論	講義	4	1		
	チーム医療と医療安全		演習	4	1			30
	看護研究Ⅰ		演習	3	1			30
	看護研究Ⅱ		演習	4	2			60
	看護の発展	地域診断方法論	講義	3		2		30
		救急看護援助論	講義	3		2		30
		次世代健康支援看護学	講義	4		2		30
		コミュニティ・ヘルスケアⅠ	講義	2		2		30
		コミュニティ・ヘルスケアⅡ	演習	4		2		60
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	1			45
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2	2			90
		在宅看護学実習	実習	3	2			90
		急性期看護学実習	実習	3	2			90
		慢性期看護学実習	実習	3	2			90
		高齢者看護学実習	実習	3	1			45
		高齢者看護統合実習	実習	4	1			45
		小児看護学実習	実習	3	2			90
		母性看護学実習	実習	3	2			90
		精神看護学実習	実習	3	2			90
		看護管理学実習	実習	4	2			90
看護学統合実習		実習	4	2			90	
多文化健康支援実習		実習	4	2			60	
公衆衛生看護	公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義	3			2	30	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	講義	3			2	30	
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義	3			1	15	

		公衆衛生看護技術	講義	4			1	15
専 門 科 目	公 衆 衛 生 看 護 学	公衆衛生看護管理論Ⅰ	講義	4			2	30
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	講義	4			2	30
		保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	3			2	30
		保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4			1	15
		公衆衛生看護学実習A	実習	4			2	90
		公衆衛生看護学実習B	実習	4			3	135

別表4 (令和4年度以降入学者)

区 分		修得必要単位数	
		必修科目	選択科目
専門基礎科目	コミュニケーション	1 単位	2 単位以上
	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと回復の促進	21 単位	
	健康と社会	9 単位	
専門科目	看護の基礎	10 単位	
	生涯発達と看護	13 単位	
	健康問題と看護	17 単位	
	看護の統合	5 単位	
	看護の発展		
	臨地実習	23 単位	
	公衆衛生看護学		
専門科目合計		101 単位以上	

別表1 (令和4年度以前入学者)

区 分		授業科目	授業 形態	配当 年次	単 位 数		
					必修	選択	自由
共 通 科 目	大 学 特 色 科 目	大学生になる	講義	1		2	
		大人になる	講義	1		2	
		社会人になるA	講義	1		2	
		社会人になるB	講義	1		2	
		NCU先端科目：医療系	講義	1		2	
		NCU先端科目：自然・情報系	講義	1		2	
		NCU先端科目：社会科学系	講義	1		2	
		NCU先端科目：人文系	講義	1		2	
		地域社会で活躍する女性	講義	1		2	
		共生社会におけるふれあいネットワーク	講義	1		2	
		現代社会と人と地域のつながり	講義	1		2	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	講義	1		2	
		E S Dと地域の環境	講義	1		2	
		多文化共生と国際貢献ーあなたに何ができるのかー	講義	1		2	
		ワークライフバランスとダイバーシティ	講義	1		2	
		まちづくり論	講義	1		1	
		次世代エネルギーワークショップ	講義	1		2	
		起業家になる	講義	1		2	
		科学館・博物館・美術館から知る名古屋	講義	1		2	
		中国短期語学研修	講義 実習	1		2	
	フランス短期語学研修	講義 実習	1		2		
	現 代 社 会 の 諸 相	日本国憲法	講義	1		2	
		なぜ憲法が必要なのか	講義	1		2	
		法学入門	講義	1		2	
		知的財産権入門	講義	1		2	
		人と法と医療	講義	1		2	
		経済学：経済と社会	講義	1		2	
		経済学：経済のしくみ	講義	1		2	
		経済学：経済学の考え方	講義	1		2	
		経営学：企業と社会、個人の関係	講義	1		2	
		経営学：企業活動の諸相	講義	1		2	
		経営学：組織を取り巻く諸環境について	講義	1		2	

共通科目	現代社会の諸相	社会学A	講義	1		2	
		社会学B	講義	1		2	
		社会学C	講義	1		2	
		社会環境論	講義	1		2	
		新聞報道の現場から	講義	1		2	
		環境行動学と情報リテラシー	講義	1		2	
		平和論	講義	1		2	
		私たちの暮らしと政治・行政・地方自治	講義	1		2	
		国際政治と社会	講義	1		2	
		フィールド研究から見るアジア	講義	1		2	
		キー・コンピテンシー	講義	1		2	
		シティズンシップ入門	講義	1		2	
		地域力を高めるひとづくり(令和4年度新設科目)	講義	1		2	
		文化と人間性の探究	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	講義	1		2
	日本文化の理解		講義	1		2	
	人類学		講義	1		2	
	日本語コミュニケーション		講義	1		2	
	囲碁に学ぶ		講義	1		2	
	死の文化学		講義	1		2	
	東ヨーロッパの文化と歴史		講義	1		2	
	文化に見る歴史		講義	1		2	
	欧州史の中の北欧史		講義	1		2	
	アメリカ史入門		講義	1		2	
	都市と地域構造の地理学		講義	1		2	
	音楽と文化		講義	1		2	
	デザインと情報		講義	1		2	
	人間と表現		講義	1		2	
	自分とみんなで考える哲学		講義	1		2	
	討論の中で問題を発見する哲学		講義	1		2	
	応用倫理学ー生命倫理の現在		講義	1		2	
	心理学概論		講義	1		2	
	心理学入門		講義	1		2	
	現代教育の諸相		講義	1		2	
	次世代育成と地域の課題		講義	1		2	
	宗教学入門		講義	1		2	
	人間と自然	科学史	講義	1		2	
環境と社会・制度・政治・経済		講義	1		2		
環境科学		講義	1		2		
植物の多様性と環境		講義	1		2		

共 通 科 目	一 般 教 養 科 目	人間と自然	動物とヒトの進化多様性	講義	1		2	
			社会と医学	講義	1		2	
			くずりと社会	講義	1		2	
			都市と自然	講義	1		2	
			健康と生活	講義	1		2	
			行動生態学	講義	1		2	
		自然と数理の探求	教養として知っておきたい様々な病気の実態	講義	1		2	
			創薬と生命	講義	1		2	
			宇宙のなりたち	講義	1		2	
			植物とバイオテクノロジー	講義	1		2	
			エネルギーのサイエンス	講義	1		2	
			バイオサイエンス入門	講義	1		2	
	英語学 科目	情報と数理の世界	講義	1		2		
		データサイエンスへの誘い(令和4年度新設科目)	講義	<u>1</u>		<u>2</u>		
		地球史入門	講義	1		2		
		地域生態学	講義	1		2		
		IS: Community	演習	1		1		
	英 語	IS: Social Justice	演習	1		1		
		IS: Life & Work	演習	1		1		
		IS: Health & Well-being	演習	1		1		
		IS: The Arts	演習	1		1		
		AE: Make a Difference in Your Community	演習	1		2		
		AE: Interact Internationally	演習	1		2		
		AE: Improve Life Skills	演習	1		2		
		AE: Raise Health/ Environmental Awareness	演習	1		2		
		AE: Produce a Movie	演習	1		2		
		CS: Presentation	演習	1		2		
CS: Grammar and Usage		演習	1		2			
CS: TOEIC Preparation		演習	1		2			
EM: World News		演習	1		2			
EM: Popular Culture		演習	1		2			
EM: Reading for Inspiration		演習	1		2			
EM: Online Articles and Videos	演習	1		2				
その 他の 言語	ドイツ語初級1	演習	1		2			
	ドイツ語初級2	演習	1		2			
	フランス語初級1	演習	1		2			
	フランス語初級2	演習	1		2			
	中国語初級1	演習	1		2			

共通科目	語学科目	その他の言語	中国語初級 2	演習	1		2		
			韓国語初級 1	演習	1		2		
			韓国語初級 2	演習	1		2		
			スペイン語初級 1	演習	1		2		
			スペイン語初級 2	演習	1		2		
			日本手話初級 1	演習	1		2		
			日本手話初級 2	演習	1		2		
			ポルトガル語入門	演習	1		2		
			ロシア語入門	演習	1		2		
			イタリア語入門	演習	1		2		
			アラビア語入門	演習	1		2		
			ドイツ語初級会話 1	演習	1			2	
			ドイツ語初級会話 2	演習	1			2	
			フランス語初級会話 1	演習	1			2	
			フランス語初級会話 2	演習	1			2	
			中国語初級会話 1	演習	1			2	
			中国語初級会話 2	演習	1			2	
			情報科目	情報処理基礎	演習	1		2	
				情報処理応用	演習	1		2	
			健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	講義	1	2		
健康・スポーツ実技	実技	1				1			
ボランティア科目	ボランティア科目 1	実習	1			1			
	ボランティア科目 2	実習	1			1			
基礎科目	地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	演習 実習	1	2				
		基礎科学	講義	1	2				
	看護基礎	家族社会学	講義	2	2				

注1 本表に掲げる授業科目のほかセミナー及び開放科目を、教授会の議を経て開設し単位を与えることがある。

別表2 (令和3年度以前入学者)

区 分			最低修得必要単位数
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	2 単位
		現代社会の諸相	* 4 単位
		文化と人間性の探究	
		人間と自然	* 4 単位
		自然と数理の探求	
	語学科目	英語	6 単位
		その他の言語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		2 単位
	基礎科目	地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
看護基礎		基礎科学	2 単位
		家族社会学	2 単位
教養教育科目合計			30 単位

注 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て2単位まで本表*印欄の必要単位数に算入することができる。

別表2の2 (令和3年度以前入学者)

検定試験の種類	語学科目[英語]	
	2 単位	4 単位
実用英語技能検定	準1級	1 級
TOEIC / TOEIC L&R	730~799 点	800 点以上
TOEFL (iBT)	77~88 点	89 点以上

注1 申請はいずれか1種類に限る。

注2 認定の対象科目は「CS: TOEIC Preparation (2単位)」又は「CS: Grammar and Usage (2単位)」とし、認定単位は4単位を上限とする。

別表3 (令和3年度以前入学者)

区分	授業科目	授業形態	配当年次	単位数			授業時間数
				必修	選択	自由	
専門基礎科目	コミュニケーション	臨床国際コミュニケーションⅠ	演習	2	1		30
		臨床国際コミュニケーションⅡ	演習	4		1	30
	人体の構造と機能・回復の促進	人体の構造と機能Ⅰ	講義	1	2		30
		人体の構造と機能Ⅱ	講義	1	2		30
		臨床栄養学	講義	2	2		30
		疾病・治療論Ⅰ	講義	1	2		30
		疾病・治療論Ⅱ	講義	2	3		45
		疾病・治療論Ⅲ	講義	1	2		30
		疾病・治療論Ⅳ	講義	1	2		30
		疾病・治療論Ⅴ	講義	2	2		30
		疾病・治療論Ⅵ	講義	2	2		30
	臨床発達心理学	講義	2	2		30	
	健康と社会	社会保障制度論	講義	2	2		30
		医療社会学	講義	2	2		30
		健康科学	演習	2	1		30
		国際保健活動論	講義	2	1		15
		疫学	講義	2	2		30
		保健統計学Ⅰ	講義	1	1		15
		保健統計学Ⅱ	演習	3		1	30
		保健医療福祉行政論	講義	3			2
専門科目	看護の基礎	看護学概論Ⅰ	講義	1	2		30
		看護援助論ⅠA	実習	1	1		45
		看護援助論ⅠB	実習	2	1		45
		看護援助論ⅠC	実習	2	1		45
		看護援助論ⅠD	演習	2	1		30
		看護学概論Ⅱ	講義	1	1		15
		看護援助論Ⅱ	演習	1	1		30
		看護学概論Ⅲ	講義	2	2		30
		看護援助論Ⅲ	演習	2	1		30
		看護学概論Ⅳ	講義	1	2		30
		看護援助論実習Ⅰ	実習	1	1		45
		看護援助論実習Ⅱ	実習	2	2		90
	と看護	生涯発達看護論Ⅰ	講義	2	2		30
生涯発達看護援助論Ⅰ		演習	3	1		30	
生涯発達看護論Ⅱ		講義	2	2		30	

専 門 科 目	生涯発達と看護	生涯発達看護援助論Ⅱ	演習	3	1			30
		生涯発達看護論Ⅲ	講義	2	2			30
		生涯発達看護援助論Ⅲ	演習	2	1			30
		臨地実習A（生涯発達母性系）	実習	3	2			90
		臨地実習B（生涯発達小児系）	実習	3	2			90
		臨地実習C（生涯発達老年系）	実習	3	2			90
	健康問題と看護	クリティカルケア看護論	講義	2	1			15
		クリティカルケア看護援助論	演習	3	1			30
		セルフマネジメント看護論	講義	2	1			15
		セルフマネジメント看護援助論	演習	3	1			30
		リハビリテーション看護論	演習	3	1			30
		精神療養生活看護論	演習	2	1			30
		地域療養生活看護論	講義	2	2			30
		地域療養生活看護援助論	演習	3	1			30
		緩和ケア看護論	演習	3	1			30
		臨地実習D（クリティカルケア系）	実習	3	2			90
		臨地実習E（セルフマネジメント系）	実習	3	2			90
		臨地実習F（緩和・終末期系）	実習	4	2			90
		臨地実習G（精神療養生活系）	実習	3	2			90
		臨地実習H（地域療養生活・リハビリ系）	実習	3	2			90
	看護の統合	看護演習	実習	3	1			45
		看護技術リファレンス	演習	4	2			60
		看護提供システム論Ⅰ	講義	4	1			15
		看護提供システム論Ⅱ	講義	3	1			15
		看護研究Ⅰ	演習	3	1			30
		看護研究Ⅱ	演習	4	2			60
		臨地実習Ⅰ（看護学統合実習Ⅰ：看護管理実習）	実習	4	2			90
		臨地実習Ⅱ（看護学統合実習Ⅱ：看護統合実習）	実習	4	2			90
	看護の発展	健康支援看護学Ⅰ	講義	4		1		15
		健康支援看護学Ⅱ	講義	4		1		15
		健康支援看護学Ⅲ	演習	3		1		30
		健康支援看護学Ⅳ	講義	4		1		15
		健康支援看護学Ⅴ	講義	4		1		15
ケアシステム看護学Ⅰ		講義	4		1		15	
ケアシステム看護学Ⅱ		講義	4		1		15	
ケアシステム看護学Ⅲ		講義	4		1		15	
ケアシステム看護学Ⅳ		講義	4		1		15	

専 門 科 目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	講義	2	2			30
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義	2	2			30
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	講義	3		2		30
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義	3			2	30
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	講義	3			2	30
		公衆衛生看護活動論Ⅴ	講義	4			2	30
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	講義	4			2	30
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	講義	4			2	30
		公衆衛生看護学実習A	実習	4			3	135
		公衆衛生看護学実習B	実習	4			2	90

別表3の2 (令和3年度以前入学者)

区 分	授 業 科 目	授業 形態	配当 年次	単 位 数			授業 時間数
				必修	選択	自由	
卒 前 教 育 ヘル ス ケ ア コ ミ ュ ニ テ ィ	コミュニティ・ヘルスケア基礎	講義	2			2	30
	コミュニティ・ヘルスケア応用	講義	3			2	30
	コミュニティ・ヘルスケア発展	実習	4			2	90
	コミュニティ・ヘルスケア実践	実習	4			2	90

別表4 (令和3年度以前入学者)

区 分		修得必要単位数	
		必修科目	選択科目
専 門 基 礎 科 目	コミュニケーション	1 単位	2 単位以上
	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	21 単位	
	健康と社会	9 単位	
専 門 科 目	看護の基礎	16 単位	
	生涯発達と看護	15 単位	
	健康問題と看護	20 単位	
	看護の統合	12 単位	
	看護の発展		
	公衆衛生看護学	4 単位	
専門科目合計		100 単位以上	

15 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する懲戒等及び措置に関する指針

(平成27年4月1日 学長決定)

名古屋市立大学学生懲戒規程（以下「懲戒規程」という。）第23条の定めるところにより、同規程第3条第1項第4号に掲げる試験等における不正行為に関し、以下のとおり定める。

(定期試験における不正行為の定義)

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持し又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用すること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義)

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

(懲戒等及び措置)

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行ったものとみなされた学生に対しては、懲戒規程に基づき、懲戒処分（戒告、停学若しくは退学）又は学部長等による厳重注意（以下「懲戒等」という。）を行う。

2 前項に規定する懲戒等とあわせて、学部長等は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部長等が教授会の議を経て決定する。
- (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該懲戒等が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

3 前項の規定にかかわらず、その学年における医学部専門教育科目のうち、不正行為を行った時点において、既に履修を終えている科目についてはその履修及び成績を無効とし、現に履修中の科目についてはその取扱いを学部長

等が教授会の議を経て決定する。

(懲戒等の通知及び公示)

第4 第3に基づき懲戒等及び措置を行うときは、懲戒等の種類に関わらず、当該学生に通知し、及び公示するものとする。

2 前項の通知については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第14条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、それぞれ行うものとする。

3 第1項の公示については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第15条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、当該学生の所属、学年、懲戒等の種類、懲戒等の理由を掲げるほか、措置の内容を明らかにする。

4 第1項および前項の公示は、次の各号に掲げる場所に掲示することにより行う。

(1) 当該学生が所属する学部等の掲示板

(2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板

(3) 懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

(その他)

第5 第3に定める懲戒等及び措置の基準については、別に定める。

付 記

1 この指針は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。

2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。

3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。

令和5年度

専門教育科目履修要項
(看護学部)

発行 名古屋市立大学

編集 名古屋市立大学 看護学部

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

電話 (052) 853-8037

この印刷物は、再生紙を使用しています。